

く ぐ

齒音にして單子音の一つ。

くゝの濁音。

句(名)

〔一〕文章中の一息にて讀み切らるゝだけの部分。●一くぎり。〔二〕詩歌にては五字、七字などの如く一定の字數に組み立てたるところ。●又は上の句、下の句の如く短歌を二段に分ちたる稱へ。〔三〕五七五の十七字より成り立ちたる歌。●發句。〔四〕詩にては絶句。

苦(名)

〔一〕くるしみ。●辛苦。●困苦。●艱苦。〔二〕心痛。●憂。●苦勞。

區(名)

土地の一區域。こゝのつ。

九(數)

きたる。

具(名)

〔一〕道具。●器物。〔二〕物の一揃。おろか。●ば。●愚鈍。△(形)―愚(又)―愚なる。

愚(名)

愚(代)

悔(名)

他人に對して自己を卑下して云ふ詞。●私。悔ゆる事。●後悔。

くひ

蟪蛄(名)

虫の名。牛馬などの皮に生ずるもの。

(和名抄)

くひ

杭(名)

切杭に同じ。木の切り株。

くひ

代(名)

地に打ち込みたる棒。

くひにげ

食逃(名)

飲食したるまゝ代金を拂はずに逃

げる事。

くひぢ

噉(名)

獸を捕ふる機械。(和名抄)

くひちがひ

喰違(名)

〔一〕喰違ふ事。●行き違ふ事。

くひちがふ

喰違(自動四段)

ありやこりやになる。

くひたふ

食倒(他動四段)

償ひをせずして他人の物を食ふ。

くひぞめ

食初(名)

小兒生れて百二十日目に食物を食

はせ初るる祝儀。

くひづぶす

食潰(他動四段)

償ふべき勞働をせずして

他人の物を食ふ。

くひづみ

食摘(名)

一月の祝にする蓬萊飾り。

くひな

水鷄(名)

水鳥の名。形雞に似て小さく夏の頃

人の戸を叩くに似たる聲して鳴く。故に其鳴くをば叩くさいふ。

くろき

區域(名) きいひ。●境界。●區劃。

くひしはる

(他動四段) 齒と齒と強く噛み合はす。...

くひもの

食物(名) 人の食ふべき物。

くひせ

株(名) 杭に同じ。木の切株。

くろ

黒(名) 色の名。墨の如き色。

くろ

畔(名) 田の畔目の高くなりて道の如きところ。

くろばう

●あぜ。 黒方(名) 古代薬物の名。

くろど

黒戸(名) 禁中清涼殿の北にあたりたる建物の

一部。徒然草に曰く「黒戸は小松の帝(光孝

天皇)位に即させ給ひて。昔たゞ人におは

しまし、時まさなごさせさせ給ひしを忘れ

給はで。常にいさなませ給ひし間なり。御

釜木に煤けたれば黒戸さいふさう」○「黒戸

の御戸」黒戸の御門」

くろどり

黒鳥(名) 鳥の名。海邊に住む色の黒きもの。

くろどりげ

黒鳥毛(名) 鎗の飾りに附くる黒色の鳥

毛。

くろがい

(名) 黒柿の音便。○大鏡「くろがいの骨の

九つあるに黄なる紙ばりたる扇」

くろかはしおとし

黒革織(名) 鏡の織の名。黒き染革に

て織したるもの。

くろかはしけ

黒河原毛(名) 馬の毛色の名。黒みが

りたる土器色。

くろかはし

烏皮屑(名) 黒き皮にて作りたる沓。昔

し御即位大嘗會等の大祀大

禮に用ひたるもの。(圖)

くろがね

黒金。鐵(名) てつ。

くろかけ

黒鹿毛(名) 馬の毛色の名。

くろかざなり

鹿毛の黒みが、りたるもの。

黒風折(名) 黒色の風折烏帽子。……能

樂などにて金色の風折烏帽子を用ふる事あ

れば其れに對して云ふ。

くろがき

黒柿(名) 柿の木のある黒き部分。紫檀。

くろかみ

黒髮(名) 黒き髮。

くろかみの

黒髮の(枕) 長し亂るなどの枕詞。

くろがしら

黒頭(名) 能裝束の一つ。惡鬼、幽靈など

の頭に被る黒き毛。

くろだひ

黒鯛(名) 魚の名。鯛の一種。色黒く味美な



るもの。

くろつば

黒羽(名)

矢羽の名。總べて眞黒なるもの。

くろつち

黒土(名)

色の眞黒なる土。

くろむ

(自動四段)

黒くなる。

くろむ

(他動下二段)

「一」黒くする。「二」巧に欺く。

●腰昧にする。

くろんばう

黒坊(名)

肌の色の極めて黒き人種。印度人、阿非利加人の類。

くろむぎ

黒麥(名)

蕎麥の古名。(和名抄)

くろう

苦勞(名)

「一」心を苦しめ勞する事。●苦痛。

くろうど

●心配。

「二」骨折。……△(動)―苦勞す。

くろうど

黒人(名)

素人に對する詞。其藝術に熟練したる人。●又其藝術を本業とする人。

くろうどふくろ

藏人所(名)

藏人の出仕して詰め居る役所。官吏は別當、頭、藏人、非藏人、出納、小舎人、雑色、所衆、瀧口あり。

くろぐろ

黒々(副)

黒きが上にも黒く。(副)―くろぐろ。

る。

くろくりげ

黒栗毛(名)

馬の毛色の名。黒みを帯びたる栗毛。

くろくびやく

九六百(名)

徳川時代の制。錢九十六文を百文に當てたる事。

くろやき

黒燒(名)

物を黒く煮し燒きにする事。又は其物。

くろまなこ

黒眼(名)

黒目に同じ。

くろまめ

黑豆(名)

豆の一種。其外皮の黒きもの。食用とし又菜用さす。

くろます

(他動四段)

黒くする。(視詞式)

くろけむり

黒煙(名)

黒色なる煙。

くろふね

黒生(名)

野原を燒きたる跡に黒く焦げ残りたる草。

くろふね

黒船(名)

蒸氣船の異名。●異國船。

くろこめ

黒胡麻(名)

白胡麻に對して普通の胡麻をいふ。

くろき

黒駒(名)

黒色の馬。○「甲斐の黒駒」

玄米(名)

春き白げざる米。●げんまい。(職人盡歌合)

黒酒(名)

大嘗會の供物に用ふる酒の名。その黒色なるを黒酒といひ。白色なるを白酒といふ。

いふ。黒酒は久佐木といふ草の灰を加へたるものにて白酒は之を加へざる尋常の酒なり。又後世黒酒は黒胡麻の粉を入れても作る。

くろぎ

黒木(名) 〔一〕皮の附きたるまゝの木。○「黒木の弓」「黒木の鳥居」〔二〕皮附のまゝにて割らぬ薪。

くろぎうり

黒木賣(名) 京都にて黒木を賣りありく婦人。●大原女。

くろめ

黒目(名) 眼球の黒き部分。●くろまなこ。(名) 黒色を帶ぶる事。●黒きところ。●黒き點。

くろみ

くろみどり

黒緑(名) 馬の毛色の名。黒みある青毛。

くろし

黒(形。形狀言ク活) 黒である。●墨の如き色である。

くろしほ

黒潮(名) 潮流の名。赤道直下より來りて我國の東南岸に沿ひ西北に去るもの。●黒瀬川。

くろび

黒日(名) 曆の詞。事を爲すに忌むべき日の稱。へ。◎上に黒星を付けて記號とする故にいふ。

くろひけ

黒髭(名) 能面の名。黒き髭ありて龍神などに用ふるもの。

くろもじ

(名) 〔一〕木の名。葉は椎に似て秋南天の如き黒色の實を結ぶもの。香氣あるが故に多く小楊枝に用ひらる。〔二〕小楊枝の異名。

くろずむ

(自動四段) 黒みを帶ぶる。

くろずみは

黒住派(名) 徳川時代の末に備前の人黒住宗忠の創めたる神道の一派。

くばる

配(他動四段) 〔一〕それ／＼に分つ。●平等に分つ。●配分する。〔二〕多くの娘をそれ／＼に嫁入らする。(源氏)

くばる

(自動四段) 火の中に入る。

くに

國(名) 〔一〕一の主權者の支配する土地の稱。日本、支那、英吉利、獨乙の類。〔二〕我國地理上の區畫の稱。山城、大和、武藏、相模の類。

〔三〕上古にては大小に限らず一區域の土地の稱。○萬葉「御心を吉野の國の」〔四〕我國。

●我日本。○「國に盡す」〔五〕我生國。●我故郷。〔六〕都會ならぬ地方。

くに

訓(名) くにに同じ。(空穗)

くにばら

國原(名) 國の廣々と平面になりたる所。○

萬葉「國原は煙たちこめ」

くにばら 國腹(名) 本國にて生れたる子。

くにが 陸(名) くがに同じ。

くにがた 國形(名) 「一」其國自然の形勢。●地形。二」其國の人情風俗。●國風。

くにがら 國柄(名) 國の姿。●國の性質。●國體。

くにがへ 國替(名) 封建時代。大名の領地を召上げて

他の土地を賜はる事。

くにだま 國魂(名) 其國の魂となりて鎮まり座す神。

くにたみ 國民(名) 其國の人民。

くにつかみ 國神(名) 「一」天神の對。此國土に住む神。

「二」其地方に住む神。

くにつやしち 國社(名) 國つ神の社。

くにつこ 國造(名) くにのみやつくに同じ。

くにつめ 國詰(名) 封建時代。大名の其領地に在る事。

くにつもの 國物(名) 其國の產物。

くにん 公人(名) 官廳の下役人。

くにん 宮人(名) 宮女。

くにのはは 國母(名) 天皇の御母。●皇太皇后。

くにのおや 國親(名) 國君。●天皇陛下。

くにのかみ 國守(名) 其國の政務を司る長官。●こく

しゆ。

くにのかせ 國風(名) 國々の風俗。

くにのつかさ 國司(名) 古代の地方官。

くにのみやつこ 國造(名) 官名。上古の制。其國を賜

はり代々相傳へて人民を統御し政務を司るもの。後世の藩主に似たり。

くにくづし 國崩(名) 石火矢の異名。

(副) 柔らかにて力の無き有様。(又)一ぐ

にやぐに にかくそ。(俗)

くにぶみ 國書(名) 「一」我國の書籍。二」國史。三」

國司の貢物に添へて奉る書面。(新六帖)

くにこさば 國言葉(名) 「一」其國の言語。二」我國の

言語。三」方言。

くにゆつり 國讓(名) 「一」天皇の御讓位。二」古代物

語の名。但し世に傳はらず。……空穗物語

の卷の名に國讓あれどもそれとは別なり。

(枕)

くにみ 國見(名) 天皇高山に登りて國の有様、人民の

狀況など見給ふ事。○萬葉「大和には村山

あれど。さりよるふ天のかく山。のほりた

ち國見をすれば」

くにみたま

國御魂(名) 國魂の尊稱。

くにしめびうた

思邦歌(名) 上古雅樂寮の歌曲の名。

くにもち

國持(名) 國持家の略。

くにもちけ

國持家(名) 徳川時代にて一國以上を領する大名の家柄。

くにもの

國者(名) 地方の人。●田舎者。

くにもせに

(副) 國も狹きほど。●國一ばいに。○奥儀抄「國もせに常にあだ名は立つめれど達

ひ見る事は只今宵なり」

くにすみめのかみ

國住初神(名) 此國土に初めて住み初めたる神。伊非諾伊莽冊の二神をいふか。○萬代集「かくわぶる人は昔もありやせしくにすみめの神ぞ知るらん」

くぼ

凹。窪(名) 〔一〕周圍の高くして中の低き所。〔二〕女の陰部。(催馬樂)

くぼか

凹みたる有様。(形) くぼかなる。(副) くぼかに。

くぼつき

窪器(名) 凹き食器。天皇供御用のは銀などにて作る。(日中行事)

くぼん

九品(名) 九品蓮臺を見よ。(佛敎)

くぼむ

凹(自動四段) 凹くなる。

くぼむ

凹(他動下二段) 凹ましむる。

くぼんれんだい

九品蓮臺(名) 極樂にて死人の座すべき蓮臺には上等より下等まで九品の等級あるを云ふ。(佛敎)

くぼんじ

九品淨土(名) 九品蓮臺の設置してある各の淨土。(佛敎)

くぼんじやうしう

九品上生(名) 九品蓮臺の最上等に生れ至る事。(佛敎)

くぼふ

公方(名) 〔一〕朝廷。〔二〕轉じて將軍家。弘法(名) 佛の敎を世に弘むる事。(佛敎)

くぼのな

陰名(名) 催馬樂の曲名。

くぼやか

凹みたる有様。●くぼか。(形) くぼやかなる(副) くぼやかに。

くぼまる

(自動四段) くぼむに同じ。

くぼて

窪手。葉碗(名) 上古食器の名。青柏の葉を綴り合せて中凹に造りたるもの。大嘗會の時、供物の米飯、干魚、菓子などを盛るに用ふ

(圖)



くぼし

凹(形。形狀言ク活) 周圍の高くして中の低き。

くべ (名) 「(一)垣。(二)馬繫ぐ處の垣。●うませ。(萬葉)

くべつ 區別(名) わちち。●差別。

くど 竈(名) 「(一)竈の後に穿ちたる穴(和名抄)(二)竈。

くどん 愚鈍(名) 愚に鈍き事。●魯鈍。△(形)―愚鈍なる。

くどう 句讀(名) 歌文の句の終の讀切。又之に附くる、○等の點。

くどく 功德(名) 來世極樂に生るゝの好成讀を得べき此世にての善事善行。

くどく 口説(自動四段) 繰りかへし述べ立つる。

くどく 口説(他動四段) 口説きて已の意に従はせんとする。

くどくどし (形。形狀言シク活) いっにもくどき有様。功德池(名) 八功德水を見よ(佛敎)

くどき 口説(名) 口説く事。(形。形狀言ク活) 繰返して同じ事を述ぶる有様。

くち 口(名) 「(一)物の出入するところ。(二)動物にて食物を受け入るゝ門。(三)ものいひ。●言

くち 鯪(名) 魚の名。一名にべ。また石持。

くち 愚痴(名) 「(一)おろかなる事。(二)愚なる身の嘆き言を述べ立つる事。……△(形)―愚痴なる。

くちいる 口入(自動下二段) 其事に口を出す。

くちろん 口論(名) 口にての議論。●ころん。(うたゝれの記)

くちは 口端(名) 口の端。

くちは 朽葉(名) 「(一)落ちて朽ちたる木の葉。(二)染色の名。黄を帯びたる茶色。●黄から茶。……其又青色を帯びたるを青朽葉といひ。黄色の特に勝ちたるを黄朽葉といふ。

くちばみ (名) 虫の名。まむし。

くちばし 喙(名) 「(一)鳥類の口。●嘴。(二)轉じては人の口。○喙を容る」

くちばし 口走(他動四段) 誤つて口外する。

くちべに 口紅(名) 唇に紅さす一種の化粧法。

くちびに 口疾(副) 早口に。●雅

くちどり 口取(名) 「(一)馬牛の口を取りて御する男。●口附。●馬丁。●牛飼(二)口取肴の畧。

くちどりざかな

口取肴(名) 料理品の名。蒲鉾、きん

さん等甘味のを多く盛り合せたるもの。

くちどめ

口止(名) 他言を禁する事。

くちどし

口疾(形。形狀言ク活) 物言ひの早き。●早口

なる。(雅)

くちなし

口惜(形。形狀言シク活) 残り多し。●残念

な。●悔し。

くちがため

口固(名) 口頭にてする約束。

くちがき

口書(名) 〔一〕口に筆をくばへて書畫を書く

事。〔二〕徳川時代。罪人の白狀を書き記して

くちう

口調(名) 口拍子。●言葉の調子。●言語の

音調。

くちう

九條(名) 九條の袈裟の畧。

くちうのけさ

九條袈裟(名)

袈裟の一種。九

布にて作りたる

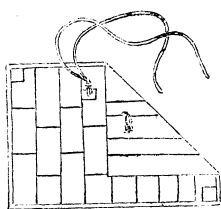
もの。(圖)

くちよせ

口寄(名) 死靈又

は生靈なごを巫

女の口に憑らし



くちそぞぐ

めて其希望を述べさする事。又は其巫女。

くちつたへ

(自動四段) くちすいぐに同じ。

口傳(名) 〔一〕言ひ傳へ。●傳説。〔二〕

くちつつ

とづけ。●傳言。

(名) 一言つゝ切れゝに言ふ事。●口不調

法。●不辯。△(形) 口つゝなる。(副)

くちつき

口付(名) 〔一〕口元の様子。〔二〕物の言ひぶ

り。

くちつき

口附(名) 馬、牛の口に附き之を御する男。●

馬丁。●牛飼。

くちなは

(名) 朽繩に似たる故の名。◎蛇の一名。

くちなは

梶(名) 草の名。蛇薺に同じ。

くちなし

實は黄色の染料となるもの。〔二〕色の名。

黄。

黄。

くぢら

鯨(名) 〔一〕動物中最大なる海獸の名。筋、肉よ

り皮、骨に至るまで皆用途あり。〔二〕鯨の鬚

なifu。色黒く光澤ありて彈力に富むもの。

器物其他の彈力を要するものに用ふ。形の

似たるが故に鬚と呼べども實は其口内にあ

る一種の鰐にして櫛の齒の如く並びたるもの。之を以て吸ひ入れたる水の中より食用とすべき小魚を抑へ。水は頭の上なる穴より噴き出だす。(三)鰐尺の略。

鯨船(名) 鯨を捕ふる爲の漁船。

鯨尺(名) 尺度の一種。織物衣服などに用ふるもの。其一寸は曲尺八分に當たる。●

吳服尺。

鯨尺(名)

くちらざしに同じ。

口移(名)

(一)口より口へ物を移して食はする事。(二)一語つゝ一句つゝ唱へて他人に其通り言はしむる事。……謠、唄などの稽古に多く此方法を用ふ。

口占(名)

物を言ふ様子にて其人の意中を察する事。

くちぐるま

口車(名)

口先にて巧みに人を欺く事。

くちぐち

口々(副)

多くの人の口にて。●めいゝくの口にて。

くちくせ

口癖(名)

癖となりて何時も其事のみをいふ事。

くちまかせ

口任(名)

口より出づるに任せてしゃべる

事。●出放題。

くちまね

口真似(名)

人の口振を真似る事。

くちまめ

(名)

物言ふ事の達者なる事。●多辯。

くちごたへ

口答(名)

目上の人の命令に抵抗して言ひ争ふ事。●口返答。

くちごやし

口強(形。形狀言ク活)

強く言ひ張る有様。

くちぶえ

口笛(名)

口をつばめて笛の如き音を立つる事。

くちふで

朽筆(名)

畫工の用品。焼筆の一名。下書をかくに用ふるもの。

くちごもる

口籠(自動四段)

口の中に籠る様にて判然せぬ言葉をつかふ。●くごもる。

くちゑ

口繪(名)

書物の巻の初に出だせる挿繪。●大繪。

くちあひひ

口合(名)

「一」相互の話のよく合ふ事。「二」即座に出づる洒落。地口の類。

くちあそび

口遊(名)

「一」口ずさみ。●口癖。○空穂「只佛の御事のみ寡言にも口遊にもしつゝ行ふ」「二」戲言。●むだ口。●じ。うだん。○空穂「こそ戯れ言はのたまふさも此かゝる口あそびは更に承らじと聞ゆれば」

くちあま

朽尾(名) 老い朽ちたる尾。(源氏)

くちわけ

口明(名) 「一」封じたる物の口を開く事。

「二」轉じて事の最初。●皮切り。

くちあみ

口網(名) 漁網の名。實物詳ならず。(土佐)

くちさがなし

(形。形狀言ク活) 口やかまし。●口のわるい。(雅)

くちざかし

口賢(形。形狀言シク活) 口先にて賢き事をいふ有様。

くちさき

口先(名) 口の先にて實あるらしく述べ立つる事。

くちさきら

(名) 「一」(吻)唇。●辨舌。(和名抄) 「二」

(喙)鳥の嘴。

くちさき

朽木(名) 朽ち腐りたる木。

くちさきり

口切(名) 「一」封じたるものを開く事。「二」

轉じて事の最初。

くちさがた

朽木形(名) 古代

模様の名。朽ちた

る木片の形に擬し

たるもの。几帳の

模様などに用ふ。

(圖)



くちさがき

朽木書(名) 燒筆を用ひて下書を作る事。

くちさよし

口清(形。形狀言ク活) 口にて潔白に言ふ有様。(雅)

くちまたなし

口穢(形。形狀言ク活) 罵る如く物言ふ有様。●惡口つく有様。

くちさき

口利(名) 「一」口を利くに巧なる人。●能辨

家。「二」世事に通じて中裁掛合等に巧なる人。

ぐちゅう

宮中(名) 御所の内。●禁中。●きゅううちゅう。(源氏)

くちめ

口女(名) 魚の名。鰯の古名。一名は赤女(紀)

くちび

口火(名) 火繩筒、火花などの口に設けたる導火線。

くちびる

唇(名) 口の周圍を境したる厚き肉。

くちび

唇(名) 皮膚病の名。口の端に出来る胼(ひ)の如きもの。(和名抄)

くちびく

口響(自動四段) 口のひりつく。……生姜、唐辛子など食したる時の感じに云ふ。(記)

くちすぢ

(他動四段) それさもなく口先にて詩歌の文句など唱ふる。

くちすぢ

(他動四段) 口すさむに同じ。

くちすさみ

(名) 口すさむ事。

くちすさび

(名) 口すさみに同じ。

くちすすぐ

嗽(自動四段) 口中を洗ふ。●うがひする。

くり

栗(名)

「一」木の名。夏の初め穂のやうなる白き花咲き秋實を結ぶ。實は毬の中に包まれて味は甘く材も亦有用なるもの。「二」栗の實。「三」染色の名。栗の實の皮の如き色。

くり

庫裏(名)

寺の臺所。

くりいだす。

繰出(他動四段)

同じものを順々に引續き

て出だす。

くりかた

繰形(名)

木工の詞。總て又物にて決り取り

たる形。●又不規則なる曲線形。○「箱の

繰形」

くりかふり

繰替(他動下二段)

繰り合せ取り替ふる。

くりかへし

繰返(名)

「一」繰り返す事。●反復。「二」歌曲に同じ文句を繰り返すこと。●か

へし。

くりかへす

繰返(他動四段)

幾返も同じ事を爲す。

くりだす

繰出(他動四段)

くりいだすに同じ。

くりぞめ

涅槃。皇(名)

染色の名。黒きもの。(古)

くりん

九輪(名)

塔の頂に立つる裝飾品。唐銅製にし

くりんさう

て九層の輪を串きたる柱の如きもの。

九輪草(名) 草の名。葉は萱に似て其花

の莖に附く有様の九輪に似たるもの。

くりうめ

栗梅(名)

染色の名。栗毛の濃きもの。

くりや

廚(名)

食物の煮炊などする處。●臺所。●勝

くりやめ

手元。●炊事場。

くりやめ

廚女(名)

廚に使はるゝ下女。●水仕女。●

くりげ

栗毛(名)

馬の毛色の名。栗色。

くりごさ

繰言(名)

同じ事を繰返し述べ立つる言葉。

くりこす

繰越(他動四段)

次に次に順に送る。

くりあぐ

繰上(他動下二段)

順序より前に上ぐる。●

くりき

順送りにして上ぐる。

くりき

功力(名)

功德の力。●ちから。●効能(佛教)

くりもどす

繰戻(他動四段)

順々に後へ戻す。

くりすます

(名)

基督教にて十二月廿五日に行ふ耶穌

降誕祭。

くぬち

國內(名)

國の内。●こくない。●國中。

くぬが

陸(名)

くかに同じ。(雅)

くぬえかう

薰衣香(名)

薰物の名。(源氏)

くぬぎ

櫟(名)

木の名。栗に似たる喬木にして薪炭な

こに用ふるもの。●くのぎ。

樞(名) くるゝに同じ。(萬葉)

繰(他動四段) 「一」巻きつゝ引き寄する。●たぐ

る。「二」順々に物を數へ行く。

刺(他動四段) ゑぐり取る。●鑿つ。●堀る。

暮(自動下二段) 「一」一日の終になる。●夜にな

る。「二」其時候または一年の終になる。

吳(他動下二段) 與ふる。●遣る。○徒然草「物

くるゝ友」

(自動下二段) 暗くなる。●目が暗む。○源氏「雲

の上も涙にくるゝ秋の月」

狂(名) 狂ふ事。

(他動四段) くるめかすに同じ。

(自動四段) くるめくに同じ。

反轉(名) 蠶より糸を取る時に用ふる器。(和

名抄)

無(名) 矢の一種。鏑の所を檜桐などにて造り

目を穿たざるもの。○著聞「くるりを以て射

たりければ」

(名) めぐり。●周圍。(俗)

樞(名) さぼそ。●戸の鍵をさして鎖すこと。

(雅)

くるるど 樞戸(名) 樞仕掛の戸。(雅)

くるほかし 狂(形。形状言シク活) 「一」氣違ひじみる。

「二」氣のいらだつ有様。●じれったし。(雅)

くるほす (自動四段) 狂ふの延音。○狂ふやうになる。

○紹「はぎくるほし」

くるわ 廓(名) 「一」城などの外圍。「二」外圍内の一區

域。「三」色里。●遊廓。

くるはりかす (他動四段) 狂はすに同じ。

くるはりす 狂(他動四段) 狂ふ様にする。

(他動四段。又下二段) 包む。

くるふ 狂(自動四段) 「一」物事の調子の亂るゝ。「二」

精神の常を失ふ。●正氣でなくなる。●發狂

する。

くるくる (副) 車などの早く廻る有様。

くるぐる (副) くるくるに同じ。稍大なる物事にいふ。

くるま 車(名) 「一」圓形にしてくるゝ廻る様

に造りたるものゝ總名。「二」車仕掛にて上

に人又は荷物など載せて運送する道具。

「三」特に牛車。(雅)「四」特に人力車。

(俗)

くるまろ

車井(名) 車井戸に同じ。

くるまろど

車井戸(名) 釣籠繩を滑車に掛けて水を汲む様にしたる井戸。

くるまよせ

車寄(名) 車を寄せて乗り下りすべき口。

くるまぞひ

車添(名) 牛車に添ひて供する下男。

くるまざどり

車舎(名) 主客の車を入れ置く小家。中古貴族の邸内に必ず設置したるもの。

くるまえび

車海老(名) 海に産する海老の一種。色麗はしく美味なるもの。

くるまぢ

車座(名) 車の輪の如く丸き形に居並び集まる事。●圓居。

くるまぢぢ

轆(名) 支那の古代刑罰の名。手足を車に縛りつけて引裂くもの。

くるまぢ

(名) 轆轤の異名。

くるまぢぢり

車切(名) 「一」薬品の名。白芷の根を車の如き形に切りたるもの。「二」剣法の名。人を胴切にする事。「三」料理の詞。輪切り。

くるまぶし

踝(名) 足首にある關節。

くるめかす

(他動下二段) くるめくやうにする。

くるめく

(他動四段) 「一」くるく廻る「二」目まひがする。

くるみ

胡桃(名) 「一」木の名。夏栗に似たる花咲き秋

くるし

桃の如き實を結ぶ其核を割り仁を食用とす。「二」胡桃の實。「三」染色の名。桃の核の如き茶色。「四」重の色目の名。表香色、裏

くるし

青。

くるし

苦(形。形狀言シク活) 身又は心の惱ましき有様。

くるしからず

不苦(句) 差支なし。

くるしむ

苦(他動下二段) 苦しめる。●惱ます。

くるしむ

苦(自動四段) 身又は心に惱を感ずる。

くるしみ

苦(名) 「一」苦しむ事。●苦痛●なやみ。「二」骨折。●勞苦。

くるんごふ

久遠劫(名) 無窮の大昔。●百億萬年の昔。

くわクナ

(佛教) 皇(名) 帝王。●天皇。

くわクナ

光陰(名) 過ぎゆく年月。●歲月。●月日。●時間。

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわクナ

くわグチ うぢよ

皇女(名) 天皇の御姫君。

くわグチ うてチヨウ

皇朝(名) 「一」我國の朝廷。「二」轉じて我國。

くわグチ うりやリヨウ

荒涼(名) ざりさめのなき事。●ばつとしたる事。●麗忽。●輕卒。△(形)―荒涼なる。(又)―荒涼の。○徒然「短慮の至り極めて荒涼の事なれども」△(副)―荒涼に。○無名抄「諸人口を閉ちて止みにけり。荒涼に物は難すまじき事なり」(動)―荒涼す。○天鏡「荒涼して心知らざる人の前にて夢な語りそ」

くわグチ うりん

光臨(名) 手紙の詞。光來に同じ。

くわグチ うがく

皇學(名) 我國の學問。●國學。●和學。

くわグチ うだい

廣大(名) 廣大なる事。△(形)―廣大なる。(副)―廣大に。

くわグチ うたいぐう

皇太后(名) 皇太后宮に同じ。

くわグチ うたいぐうじョ

皇太后宮(名) 天皇の御母の尊號。

くわグチ うたいぐうじョしよ

皇太后宮職(名) くわうたいぐうじョしきに同じ。後世の稱へ。

くわグチ うたいぐうじョしき

皇太后宮職(名) 皇太后宮の

くわグチ うたいし

御所の事務を執る役所。官吏は大夫、亮、進、屬あり。

くわグチ うたぐ

皇太子(名) 天皇の御相續人として遂に皇位に昇り給ふべき皇子。

くわグチ うたぐ

光澤(名) 美しき光り。●色艶。

くわグチ うそ

皇祚(名) 天皇の御位。●寶祚。

くわグチ うそ

皇祖(名) 天皇の御先祖。

くわグチ うそん

皇孫(名) 天皇の御孫。

くわグチ うぞく

皇族(名) 天皇の御一族。

くわグチ うらい

光來(名) 手紙の詞。來るの敬語。

くわグチ うゐ

皇位(名) 天皇の御位。●天位。●寶祚。

くわグチ うゐ

皇威(名) 天皇の御威光。

くわグチ うくわグチ

煌煌(副) きら／＼光る有様。(又)煌煌と。

くわグチ うぐう

皇后(名) 天皇御後の尊號。……くわうじョうと讀むは非なり。

くわグチ うぐうじョ

皇后職(名) くわうじョうしきに同じ。後世の稱へ。

くわグチ うぐうしき

皇后職(名) 皇后の御所の事務を執る役所。官吏は大夫、亮、進、(大、少)屬、(大、少)あり。

くわ クチ うげん

廣言(名) 誰憚らず勝手なる事を述べ立つる事。●放言。●大言。●大口。○謡曲

「是れが最期の廣言さ」△(動)―廣言す。

くわ クチ うぶつ

礦物(名) 動植物に對して天地間の無生物の總稱。●金石。

くわ クチ うつ

恍惚(副) 物事に心を奪はれてうつそりとする有様。●ほれんど。●ぼんやりと。(又)―恍惚さ。

くわ クチ うこん

黃昏(名) 日の入りて後、夜になる前。●たそがれ。●夕暮。●薄暮。

くわ クチ うこく

皇國(名) 我國の尊稱。●すめらみくに。●帝國。

くわ クチ うこく

廣告(名) 「一」世界に廣く告げ知らせる事。●廣め。△(動)―廣告す。「二」廣告の爲にする書畫など。●引札。

くわ クチ うえつり

光悅流(名) 書道流派の名。木阿彌光悅の書き創めたるもの。

くわ クチ うてい

皇帝(名) 天皇。●みかど。

くわ クチ うてん

皇典(名) 我朝廷の書籍。國史。律令。格式の類。

くわ クチ うざん

鑛山(名) 鑛物を産出する山。●金山。かなやま

くわ クチ うき

皇居(名) 天皇の御所。●皇宮。

くわ クチ うき

皇宮(名) 天皇の御殿。●御所。●禁裏。●皇居。●宮城。

くわ クチ うみや

光明(名) 「一」ひかり。「二」特に神佛より放つ奇異なる光。●靈光。

くわ クチ うみや

うへんぜう 光明遍照(句) 佛の光明の遍く照り渡る事。(佛教)

くわ クチ うじや

皇上(名) 當代の天皇。●聖上。●主上。●陛下。

くわ クチ うしつ

皇室(名) 天皇の御家。●帝室。●王室。

くわ クチ うじん

荒神(名) 天竺の神の名。三寶護衛の神なりさて三寶荒神と稱へ。又最も不淨を忌み火の清淨を喜ぶが故に竈神として家毎に祭らる。

くわ クチ うじんば

荒神薙(名) 荒神棚を掃く爲に用ふる小帚。

くわ クチ うじんだな

荒神棚(名) 家々にて荒神を祀る神棚。多く竈の上に設く。

くわ クチ うじんまつ

荒神松(名) 荒神棚に供ふる松の小枝。

くわ クチ うもん

黃門(名) 中納言の異名。

くわ^{グナ} うせん

光線(名) 物理學上の詞。光り。

くわ^{クナ} うせん

黃泉(名) 人の死して行く處。●冥途。

くわ^{クナ} うせん

鑛泉(名) 溶解したる地中の鑛物を含みて涌き出づる泉。溫冷二種あり。

くわ 火(名)

古代の軍隊組織にいふ詞。伍(五人)を二つ合はせたるもの。

くわ 化(名)

(一)變化。(二)德化。

くわ 靴(名)

古代者の名。……靴の音を見よ。

くわ 貨(名)

たゞら。●金錢。

くわ 果(名)

結果。●できばえ。

くわ 菓(名)

「(一)木の實。●くだもの。(二)菓子。

くわ 課(名)

役所などにて分擔して受持つ一小區分の名。○「報告課」「庶務課」

くわ 窠(名)

模様の名。……窠の紋を見よ。

くわ 科(名)

さか。●罪。

くわ 寡(名)

少なき事。

くわ 和(名)

やはらぐ事。●平和。

くわ 桑(名)

木の名。葉は蚕の食となり材は器物に適するもの。

くわ 鋤(名)

農具の名。土を掘り返すに用ふるもの。

くわ 鋤(名)

これはの轉。○物を急に人に指し示す時。又

くわ^ラ

(感)

くわ^ガ 畫(名)

見給へさいひて」
ゑ。●繪畫。

くわ^イ 會(名)

「(一)寄り合ふ事。●會合。●集會。(二)會

くわ^イ 回(名)

合の一團體。●會社。●社。

くわ^イ 怪(名)

度。●度。●不思議。

くわ^イ 快(名)

あやしき事。●愉快。

くわ^イ 外(名)

ほい。

くわ^イ 懷燼(名)

懷中して燼を取る爲の具。

くわ^イ 廻廊(名)

折れ廻りたる廊下。

くわ^イ 回祿(名)

支那にて云ふ火の神の名より來る

くわ^イ 廻杯樂(名)

◎火災の異名。

くわ^イ 懷妊(名)

身持になる事。●孕む事。●懷胎。

くわ^イ 懷妊(名)

△(動)――懷妊す。

くわ^イ 快方(名)

病の快き方に進む事。●快氣。

くわ^イ 會讀(名)

寄り合ひて書物を讀み相互に研究する事。△(動)――會讀す。

くわ^イ 蛔虫(名)

虫の名。人の小腸に寄生するも

くわ^イ

くわ^イ

くわ^イ

の。

くわいちゅう

懷中(名) 「一」懷の中。「二」懷の中に入る物。●紙入。

くわいちゅうす

懷中(他動サ變) 懷中に物を入れる。

くわいたい

懷胎(名) 懷妊。●妊娠。△(動)―懷胎す。

くわいたん

怪談(名) 妖怪の談話。●化物噺。

くわいれき

廻曆(名) 曆日の一週して年の始めとなる事。●年始。●新年。

ぐわいそぼ

外祖母(名) 母方の祖母。

ぐわいそん

外孫(名) 娘の他に嫁して生みたる子。

ぐわいそふ

外祖父(名) 母方の祖父。

くわいらい

傀儡(名) 人の手に持ちて踊らする人形。●くわつ。

くわいらいし

傀儡師(名) 傀儡を踊らする人。●くぐつ。●人形遣い。

くわいらく

快樂(名) 快く樂しき事。●愉快。

くわいくつ

快濶(名) 心の廣々として愉快なる事。●心のさげたる事。△(形)―快濶なる。(副)

―快濶に。

くわいけい

會計(名) 金銭を勘定する事。又は其人。

くわいけん

懷劍(名) 懷中に佩ぶる小刀。

くわいぶん

迴文(名) 「一」和歌の一種。順に讀めても逆

に讀めても同じ言葉になる歌。……「疾く立たじ里のたむら雪しろし消ゆらむわたの戸さしたなくさ」の類。「二」迴狀。●迴章。

ぐわいぶん

外聞(名) 世間への聞え。●人聞き。

くわいふく

恢復(名) 以前の有様に引戻す事。△(動)―恢復す。

くわいこつ

迴忽(名) 雅樂の曲名。

くわいがふ

會合(名) 集合に同じ。

ぐわいかう

外交(名) 外國との交際。●國交。

くわいこく

迴國(名) 佛道修行又は神佛禮拜の爲に諸國を經巡る事。△(動)―迴國す。

ぐわいこく

外國(名) 我國以外の國。●外邦。●他邦。

くわいき

快氣(名) 病氣の快き事。

くわいき

回忌(名) 毎回の忌日。一周忌、三周忌、七周忌の類。●年忌。

くわいぎ

會議(名) 集合して評議する事。●集議。△(動)―會議す。

―會議す。

くわいきゅう

懷舊(名) 昔を懷ひ出す事。

くわいし

懷紙(名) 「一」ふさころがみ。●たいうかみ。「二」和歌を認むる正式の料紙。私にては引

くわいじやしょう

合紙を用ひ。公宴には檀紙を用ふるを法とす。書式に定まりあり。

廻狀(名) 同一の事を多數の人に通知する時。宛名を連署して順々に廻すやうにしたる書狀。●廻文。●廻章。●めぐらしぶみ。

ぐわいじん

外人(名) 「一」連中以外の人。●家族以外の人。「二」外國人。

くわいしゃ

會社(名) 「一」事業を營む爲の同盟。法律上人として待遇せらるゝもの。其組織によりて株式、合名、合資等種々あり。「二」會社の事務を取扱ふ場所。

くわいしやす

膾炙(他動サ變) 膾や燒肴の如く常に人の口の端にかゝる。

くわいせい

快晴(名) 好き天氣。

くわいせつ

廻雪(名) 支那古代の舞曲の名。

くわいせん

廻船(名) 貨物の廻漕に用ふる船。

くわいせき

會席(名) 「一」集合の場處。「二」茶道にて茶を喫する前に食する料理品。「三」轉じて高等なる料理品。

ぐわいせき

外戚(名) 母方の親戚。

くわいす

會(自動サ變) 寄り合ふ。●集まる。

くわいす

會(他動サ變) 寄り合はする。●集むる。

くはばたけ

桑畑(名) 養蠶用の桑を植ふたる土地。

くはばら

桑原(名) 雷鳴の時に唱ふる呪文の詞。◎桑原といふ地は菅公の領所なりしゆゑ其靈のなりたる雷は此地に落ちずその想像より言ひ出したる詞なりと云ふ。

くはん

過半(名)(副) 半分過。●大半。△(形) 過半の。

くわほんぢく

火煩地獄(名) 地獄の一種。火にて攻めめらるゝところ。(佛敎)

くわばう

果報(名) 善因惡因の結果として廻り來る報い。(佛敎)

くわへい

貨幣(名) 政府の規定により一般に通用する金錢紙幣の總名。

ぐわべい

畫餅(名) 畫の餅の如く實際の役に立たぬの意。◎無益。●むだ。●水泡。●徒勞。

くわど

蝌蚪(名) 漢字の書體の名。支那の上古に竹の札に漆にて書きたりと云ふ文字。◎其形の蝌蚪に似たる故の名。

くわどらう

曇頭樂(名) 雅樂の曲名。

くどうしゆ

雲頭衆(名) 南都東大寺戒壇院の僧の稱。

◎袈裟にて頭を覆む故の名。

ぐちりん

月輪(名) 月。……(天上の) ●太陰。

くわてナヨウ

花鳥(名) 花と鳥と。

くわてナヨウ

火定(名) 身を火中に投じて入定入滅する事。(佛教)

ぐわてナヨウ

書帖(名) 書を載せたる折本。

くわてナヨウ

花鳥風月(句) 花と鳥と風と月と。……風流を代表して云ふ詞。

くわちゅう

火中(名) 「一」火の中。「二」火の中に投げ入る事。●焼き捨つる事。△(動)―火中す。

ぐわちじん

月神(名) 月の神。●月讀尊。(諸曲)

ぐわあふり

花押(名) 書判。

くわはる

加(自動四段) 増し殖ゆる。●増加する。

くわがい

花街(名) 遊廓。●遊里。●色里。●遊女場。

くわはかた

鉄形(名) 兜の飾の名。慈姑の葉を豎二つに切りたる形したるもの。(圖)



くわかく

化學(名) 學科の名。物質變化の原因法則を研究する理學。

くわかく

科學(名) 理學。●さいやんす。

ぐわかく

畫學(名) 圖書を學ぶ一科。

くはた

桑田(名) 桑畑。

くはたつ

企(他動下二段) 其事を爲さんと思ひ起す。●もくろむ。

くわだん

花壇(名) 草花を種ふ列ぶる爲に土を盛りたる處。

くだん

果斷(名) 決斷の速なる事。△(形)―果斷なる。(副)―果斷に。

くわたく

火宅(名) 現世の苦痛多きを火の燃えて居る家に喩へていふ詞。……三つの車を參考せよ。(佛教)

くわそ

過所(名) くわしよに同じ。

くわさう

火葬(名) 屍體を焼きて骨を葬る事。△(動)―火葬す。

ぐわさう

畫像(名) 畫に寫したる人の似姿。●肖像。●草色(名) 染色の名。萱草の花の色の如く黄に少し赤みを帯びたるもの。

くわさういろ

くわぞく

華族(名) 「一」くわしよくに同じ。「二」維新後制定せられたる身分の稱。公家、大名、及び國家に勳功ある人、又は其子孫を之に叙せられ特別の待遇を賜はるもの。

くわつ

活(名)

〔一〕語學上の詞。―活用と同じ。●はたらき。〔二〕柔術の詞。氣絶したる人を活かす手段。

くわつぱつ

活潑(名)

舉動又は精神の活氣ある事。△(形)―活潑なる。(副)―活潑に。

くわつばん

活版(名)

〔一〕活字にて組み立てたる版。〔二〕活字に同じ。

くわつど

(副)

兩方に廣がるやうの有様。●はれんくとしたる有様。○謡曲「左右へくわつどそいたりける」

くわつどう

活動(名)

活潑に運動する事。△(動)―活動す。

くわつしょう

活用(名)

〔一〕語學上の詞。語尾の變化。●活。●はたらき。〔二〕物事を活かして用ふる事。●利用。●△(動)―活用す。

くわつそく

月經(名)

ぐわつしよくに同じ。

くわつけい

活計(名)

生活の方法。●暮らし。

くわつてんし

活氣(名)

活動の氣。

くわつぎ

月忌(名)

人死して後月々に廻り來る命日。

(雅)

くわつじ

活字(名)

一個に一字づゝ刻みて之を組み合せ種々の文章に活用して印刷し得る様に造りたるもの。材料は昔は黄楊。現今普通は鉛又は銅を用ふ。

ぐわつしど

月蝕(名)

地球の太陽と月との間に挟まりたるため月の面の虧けて暗くなる事。

ぐわつび

月日(名)

〔一〕年の月と日と。〔二〕その月日を明に示さる時にいふ詞。某月某日といふに同じ。

くわら

(名)

袈裟の一種。頭より前の方に掛くるもの。(圖)



くわん

官(名)

〔一〕朝廷。●政府。●おほやけ。●おかみ。〔二〕官の事務を執る處。●役所。〔三〕官の事務を執る人。●官吏。〔四〕事務を執る役目。●役。●つかさ。〔五〕轉じて……總べて役目。〔六〕特には太政官もしくは神祇官。

くわん

管(名)

〔一〕雅樂にては吹物の總名。簫、笙、篳篥。〔二〕管にて造りたるものを數ふる詞。○「一管の筆」

くわん

館(名)

大なる建物。●やかた。●たち。

棺(名)

人の屍を入れて葬る箱。●柩。

冠(名)

かんむり。

貫(名)

〔一〕秤目の名。十百目の重さ。
〔二〕錢目の名。古に一千文。徳川時代になりて九百六十文。現今は十錢。〔三〕武家時代。知行高の稱。永樂錢拾貫文を以て百石と爲す。

卷(名)

〔一〕卷物。〔二〕書籍。

鑑(名)

くる金屬製の把手。

歡(名)

喜び。●樂しみ。●歡樂。

寛(名)

ゆるやかなる事。●心ひろき事。

願(名)

神佛への願ひ。●祈願。

丸(名)

〔一〕丸きもの。●玉。〔二〕丸藥。〔三〕彈丸。

官位(名)

官と位と。

官員(名)

役人。●官吏。●官人。●有司。

玩弄(名)

弄ぶ事。玩弄とする事。△(動)ー玩弄す。

關白(名)

くわんげくに同じ。(雅)

天皇御幼少の時(十五歳まで)その

ぐわんにち

ぐわんによ

ぐわんにん

ぐわんにん

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

ぐわんぼ

元日(名)

ぐわんじつに同じ。●元旦。

官女(名)

くわんぢよに同じ。

官人(名)

役人。●官吏。●官吏。●有司。

願人(名)

徳川時代の詞。乞食にして僧形をなしたるもの。

願解(名)

神佛へ掛けたる祈願の成就して後にする御禮參。

官本(名)

官府にて出版したる書物。

關防(名)

書の右の上の隅に押す印。

灌木(名)

植物の一種。草と木との間に位するもの。總名。山吹、萩、牡丹の類。

官幣社(名)

現今神社の格式の最も高きもの。朝廷より幣帛を奉りて祭らせ給ふ社。

官邊(名)

官府に關係したる事。●公邊。

關東(名)

〔一〕足柄山より東八ヶ國。〔二〕鎌倉幕府。

官等(名)

官位の等級。

卷頭(名)

〔一〕卷物の巻き始めの處。〔二〕和

歌、發句などにて秀逸の作。

くわんぢよ

官女(名) 宮仕の女。

くわんぢやちヨウ

灌腸(名) 醫術の名。大便の通じを促す爲め藥又は水を肛門より注入する事。△(動)―灌腸す。

くわんぢやちヨウ

灌頂(名) 佛門に入り始めて戒を受くる人の頭に香水を灌ぐ儀式。

くわんぢく

巻軸(名) 「一」巻物の名。巻き終りの處。「二」和歌、發句などにて秀逸に續く第二の傑作。

くわんり

官吏(名) 役人。●官員。

くわんり

管理(名) 取締る事。△(動)―管理す。

くわんり

元利(名) 元金と利子と。

くわんりやリヨウ

管領(名) 管轄。●擔當。○日中行事「代厄の御祭管領の陰陽師つこむるなり」

くわんりよう

丸龍(名) 模様の名。龍の形を丸く畫がきたるもの。

くわんりつ

官立(名) 官府にて設立する事。

くわんりき

願力(名) 願を籠めたる一心。●念力。●一念。

くわんりき

願を籠めたる一心。●念力。●一念。



くわんぬき

門(名) 扉に打ちたる鉄に貫きて門を鎖すための横木。

くわんぬきに

(副) 門の如く一の字なりに。

くわんわ

官話(名) 支那にて公用に專用する言語。

くわんかつ

管轄(名) 管理統轄する事。●支配。△(動)―管轄す。

くわんがく

勸學(名) 學問を勸むる事。

くわんたい

緩急(名) 「一」おこたり。「二」なほざり。

くわんたい

款待(名) よく待遇する事。△(動)―款待す。

くわんたい

寛大(名) 心の廣く寛やかなる事。△(形)―寛大なる。

くわんたん

元旦(名) 元日の朝。

くわんれい

管領(名) 足利時代の役名。將軍の執權職…義詮の時までは執事職と稱へしを義滿の時管領と改稱せり。

くわんれき

還曆(名) 六十一歳の稱へ。暦年一週して生年の干支に還る故にいふ。●本卦返り。

くわんそ

元祖(名) 「一」先祖。「二」創業者。

くわんさう

觀相(名) 人相を見る事。

くわんさう

萱草(名) 草の名。秋の頃百合に似て黄色の花咲くもの。

くわんねん

観念(名) 〔一〕観じ念ずる事。●悟る事。〔二〕

覺悟。●あきらむる事。……△(動)―観念

す。〔三〕かんがへ。●念慮。

ぐわんねん

元年(名) 〔一〕年號の改まりたる年の稱。

〔二〕天皇御即位の年の稱。

くわんない

管内(名) 管轄の區域内。

ぐわんらい

元來(副)

もさより。

くわんらく

歡樂(名) 〔一〕たのしみ。〔二〕足利氏の頃病

氣さいふ事を思ひて言ひ替へたる詞。○殿

中日次記「依歡樂不參之時者」

くわんおん

觀音(名) 觀世音の略。(佛教)

くわんおんびらき

觀音開(名) 佛像を入るゝ厨子の扉

に似たる開き戸。多く土藏などに用ふるも

の。

くわんのき

門(名) くわんぬきに同じ。

ぐわんぐ

玩具(名) もてあそぶもの。●玩弄物。

くわんぐん

官軍(名) 賊軍に對して云ふ。朝廷の軍勢。

ぐわんやく

丸藥(名) 練り合せて丸めたる藥。

くわんけ

勸化(名) 勸進に同じ。

くわんけい

關係(名) かいばり。●係り合ふ。△(動)―

關係す。

くわんけちやう

勸化帳(名) 勸進帳に同じ。

くわんけん

管見(名) 管の中より天を視く如き狭き意見

の意。◎自己の意見を謙遜して云ふ詞。

くわんげん

管絃(名) 〔一〕糸竹。●雅樂。〔二〕舞樂なし

に音樂のみを奏する事。

くわんぷ

官府(名) 〔一〕朝廷に同じ。●政府。●役所。

〔二〕太政官。

くわんぶ

官符(名) 太政官の布令。

くわんぶつ

灌佛(名) 灌佛會に同じ。

ぐわんぶつ

玩物(名) 玩具に同じ。

くわんぶつゑ

灌佛會(名) 寺にて四月八日に行ふ釋迦誕

生の祭。此日は時節の花にて葺きたる小屋

の中に上下を指さしたる釋迦の像を置き。

詣づる人毎に甘茶を其頭より浴びさするを

習す。

くわんかこう

還幸(名) 天皇の御還り。●還御。

くわんえいせん

寛永錢(名) 銅錢の名。寛永年間に鑄た

るもの。四文錢一文錢の二種あり。異名を

青錢、耳白錢など稱ふ。現今は二厘一厘に

通用す。

くわんてつ

貫徹(名) 其事の趣意の貫き徹る事。△(動)

—貫徹す。

くわんざ

冠者(名) くわんじやに同じ。

くわんざい

關西(名) 京坂以西の國。

くわんさつ

觀察(名) 物事に注意深く觀る事。△(動) — 觀察す。

くわんまつし

觀察使(名) 政治の得失、官吏の良否等を觀察せしむるため古へ朝廷より全國へ遣はされたる使者。

くわんさん

恒算(名) 恒算供奉に同じ。

ぐわんさん

元三(名) 元三日に同じ。

ぐわんさんにち

元三日(名) 正月の一日二日三日。●三箇日。(雅)

くわんさんぶ

恒算供奉(名) 天狗の名。(大鏡)

くわんざく

官爵(名) くわんしやくに同じ。(源氏)

くわんぎ

歡喜(名) よろこび。

くわんぎょ

還御(名) 天皇の御還り。●還幸。

ぐわんげふ

勸業(名) 實業を獎勵する事。

ぐわんきん

元金(名) 利足に對して云ふ。元金。

くわんい

官有(名) 官府の所有。

くわんめい

官名(名) 官の名稱。●役名。

ぐわんみ

玩味(名) 物事の深き意味合を味ふ事。△(動)

—玩味す。

くわんみやう

官名(名) くわんめいに同じ。

くわんじざ

荇爾と(副) にっこり。

ぐわんし

願書(名) 願を記して官廳などに出だす文書。

くわんしやう

還昇(名) 殿上人の地下に下げられたるが又もその殿上人に還り昇る事。

くわんじやう

勸請(名) 神佛の靈を招き迎へて祭る事。△(動) — 勸請す。

ぐわんじつ

元日(名) 一月一日。

くわんじん

寛仁(名) 寛大にして仁心ある事。△(形) — 寛仁なる。

くわんじん

勸進(名) 神佛に寄進の金錢を募るため信者に勸めあるく事。●勸化。

くわんじんちやう

勸進帳(名) 勸進の主旨を記したる帳面。

くわんじんより

(名) くわんせよりに同じ。

くわんじんのう

勸進能(名) 「一」勸進の目的にて興行する能樂。「二」轉じては能太夫が一世一代の寵として幕府の許可を得、公に興行せし能樂。

くわんじんもど

勸進元(名) 勸進興行の發起人。

くわんじんすまふ^{セツ}

勸進相撲(名) 〔一〕勸進の目的に

て興行する相撲。〔二〕轉じては一年一回本場にて興行する本式の相撲。

くわんじや

患者(名) 病に罹り居る人。●病人。●病者。

くわんじや

冠者(名) 〔一〕元服し始めて冠を着たる者。

〔二〕若者。〔三〕六位にて無官の人。

くわんしやく

官爵(名) 官位。

くわんじやく

官爵(名) くわんしやくに同じ。

くわんじやく

貫主(名) 天台宗の管長。すなはち延暦寺の

座主。

くわんじやく

貫首(名) 藏人頭の異名。

くわんじやく

卷頭(名) 〔一〕經文を數度繰り返し讀誦する

事。〔二〕經文を讀誦せる度數を記し置くもの。

ぐわんしやく

願主(名) 願を掛けたる當人。

ぐわんしやく

願酒(名) 神佛に誓ひて禁酒する事。△(勸)

一願酒す。

くわんじやく

卷數の木(名) 卷數の數取に用ふる木。

くわんじやく

官費(名) 官府より費用を支出する事。

くわんもん

關門(名) 關所の門。●關所。

ぐわんもん

願文(名) 神佛に祈願の趣意を記して奉る文

書。

ぐわんまそう

願望(名) 願ひ望む事。●希望。

くわんせい

關西(名) くわんさいに同じ。

くわんせり

觀世流(名) 能樂流派の名。結崎觀阿

彌清次(足利義滿の時)の創めたるもの。後

觀世と改姓せし故に此名あり。

くわんぜおん

觀世音(名) 菩薩の名。慈悲を以て衆生を

救ふの本誓あるもの。(佛教)

くわんぜより

(名) 紙のこよりを二つ合はせてよりたる

もの。◎能太夫觀世家にては翁鳥帽子の頂

頭掛に之を用ふるより起りたる稱。

くわんぜつ

官設(名) 官府にて設くる事。

くわんぜつ

關節(名) 骨と骨との番ひ目。●又物事の番

ひ目。

ぐわんぜんし

頭は無(形)形狀言ク活) 小兒の無邪氣な

る有様。

くわんぜんちやうあく

勸善懲惡(句) 善を勧め惡を懲ら

す事。

くわんぜぶ

觀世鉢(名) 鉢の一種。切口に觀世水の如き

模様あるもの。

くわんぜこより

(名) くわんぜこよりに同じ。

くわんぜみづ

観世水(名) 模様の名。水の

渦まきたる形。◎能太夫観世

家にて此水を記章に用ふる故

の名。(圖)



くわんす

罐子(名) 茶釜に似たる金製磨の器物。

くわんす

關(自動サ變) 關係する。◎かいはる。◎係り

合ふ。

くわんす

冠(自動サ變) 「一」冠を着る。「二」かぶる。◎

うむる。「三」頭に置く。

くわんす

觀(自動サ變) 悟る。○「浮世を觀す」

くわんす

丸(自動サ變) 丸める。◎丸藥にする。

くわんす

管(自動サ變) 管理する。◎管轄する。◎支配

する。

くわんす

加(他動下二段) 増し殖やす。◎附け添ふる。

くわんす

(他動下二段) 上下の齒の間に支へ持つ。

くはのかど

(名) 「一」桑門の文字の直譯。◎僧。○新

六帖「からくして入りしは何ぞ桑の門道の
心よ其しるしあれ」「二」之を誤解して桑の
垣などの下に隠れ住む。いゝるさして世捨人
の閑居のさまにいふ。○夫木同じくは閑ち

くわん

靴の杏名) 革に赤地錦と金物

との飾を加へて作れる古代の

杏。束帶の時に用ふるもの。

(圖)



くわん

窠紋(名) 古代模様の名。もつ

こ。 (圖)

くわん

畫(名) 漢字にいふ詞。筆の一働き

を一畫さいふ。たさへば人の

字は二畫にして文の字は四畫なるの類。



くはくは

(感) くはな重れたる詞。○字治くはく

と大聲して」

くわんぶ

火浣布(名) 石綿の纖維にて織りたる布。

火に焼けぬもの。

くわんぶ

鵜翼(名) 古代軍法にて陣立の名。鵜の翼を

擴げたる如く兩翼を張る事。

くわんぶ

霍亂(名) 病の名。暑中食傷にて吐瀉するも

の。◎類似虎列刺。

くわんぶ

郭公(名) 鳥の名。ほこいぎす。

くわんぶ

豐饒(副) 老いて益す壯なる有様。(又)一

嬰鏢と。△(形)―嬰鏢たる。

くくじびき

書字引(名) 書の數によりて漢字を引くやうに作れる字書。

くはッや

(感) くはに他の感詞やの添ひたるもの。○源氏、くはや昨日の返り言」

くはッまゆ

桑蘭(名) 蘭の蘭。

くわげん

管絃(名) 糸竹。●雅樂。●くわんげん。

くげんかう

管絃講(名) 雅樂を奏して死者の法事を營む事。

くぶん

過分(名) 分に過ぐる事。●過當。△(形)―過分なる。(副)―過分に。

くふうらく

和風樂(名) 雅樂の曲名。

くばッこ

桑蠶(名) 蠶。(萬葉)

くつこ

過去(名) 「(一)過ぎ去りたる時。(二)文法上の詞。過去の時をあらはす動詞。

くつご

過誤(名) 誤。●過失。●誤謬。

くつごちや

過去帳(名) 寺にて死者の法名と忌日を記し置く帳簿。

くごん

過言(名) 無禮なる言語。

くごう

火口(名) 噴火山の火を噴き出す口。

くごう

書工(名) 書かき。●書師。

くかッうせき

花崗石(名) 石の名。御影石。

くごしちぶつ

過去七佛(名) 釋迦出世までに降生せし七體の佛。一に毘婆尸佛、二に尸棄佛、三に毘舍浮佛、四に拘留孫佛、五に俱那含牟尼佛、六に迦葉、七に釋迦牟尼佛。(佛教)

くえん

火焔(名) 「(一)火の燃ゆる形。●ほのほ。(二)樂太鼓の頂に附きたる飾。眞鍮にて火焔の形を作れるもの。

ぐえん

(名) 「(一)徳川時代。江戸の見附番處に附屬し居たる消防夫。「(二)轉じて放蕩無賴の徒。

くえんだいこ

火焔太鼓(名) 樂太鼓の一名。

くつてい

課程(名) 一日に割り當てたる仕事の程度。

くつてい

課丁(名) 仕事と日數とを割り當てられたる人足。●よぼろ。

くさき

過奢(名) 分に過ぎたる奢。●贅澤。(大鏡)

くさき

冠者(名) くわんじやに同じ。(源氏)

くさきい

火災(名) 火事。●火難。

くさん

火山(名) 地熱の作用によりて蒸氣、熔岩、灰等を噴き出す山。●噴火山。

くき

花器(名) 花いけ。●花瓶。

くき

火氣(名) 火の氣。

くわぎゅう

蝸牛(名) 虫の名。かたつむり。●まひく

つぶる。

くわきふ

火急(名) 火の物を焼く如く急なるの意。

◎大至急。△(形)―火急の。(副)―火急に。

くわし

菓子(名) 茶受などに食する食品の名。多くは穀

類の粉に砂糖を加へて造りたる甘味のもの。

くわじ

火事(名) 建物の焼くる事。●失火。●火災。●

火難。

くはし

委。細。精(形。形狀言シク活) 細である。●詳

いである。●熟達して居る。

くはし

(形。形狀言シク活) 美し。(古)

くわしよ

過書(名) 關所など通過する時の手形。●鑑札。

くわしよ

華族(名) 清華に同じ。

くわしん

花信(名) 花の咲きたる音信。

くわし

火車(名) 火の燃わたる車。地獄にて罪人を載

せ鬼の挽く車。(佛教)

くわし

華奢。過奢(名) 分に過ぎたる奢。●贅澤。

くわじ

冠者(名) 「くわんじや」に同じ。「くわ」召使の

くわび

華美(名) 華やかに美しき事。●はで。△(形)―

若者。○「太郎冠者」

くわびん

花瓶(名) 花いけ。●花がめ。●花器。

くわせい

火星(名) 太陽系に屬する遊星の一つ。色の赤

く見ゆるもの。

くわせんし

畫仙紙。畫全紙。畫箋紙(名) 書畫等に用ふる

紙の名。支那産にして白紙よりも大きく厚

くわせき

化石(名) 土石の中に埋まりたる動植物の化石

て石となりたるもの。

くわす

化(他動サ變) 「くわ」變化せしむる。「くわ」感化せし

むる。

くわす

化(自動サ變) 「くわ」變化する。「くわ」感化を受ける。

くわす

和(他動サ變) 物を交ぜ合はす。

くわす

和(自動サ變) 「くわ」睦みと和らぐ。●和合す。「くわ」

物と物と程よく交じる。

くわす

課(他動サ變) 割り付くる。●負擔さする。

くわが

陸(名) 陸地。●くわが。●くにが。

くわが

苦界(名) 「くわ」苦を受ける世界。●苦しき境界。

くわが

陸路(名) 「くわ」佛教にては現世。●娑婆。

くわが

探湯(名) 上古行はれし誓の一法。罪の疑は

華美なる。(副)―華美に。

しきを糺す時。神に誓ひて熱湯を探らしむるに有罪者は其手闢れ無罪者は闢れざるを以て其罪の有無を判斷するもの。

具眼(名) 理非を差別する眼力を具ふる事。

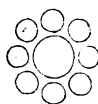
供養(名) 佛に物を供へ人に物を施し養ふの意。◎「一」佛の祭。「二」僧または貧民など

に施す事。「三」佛への供物。

くえう

九曜(名) 「一」佛家または陰陽師の祭る星の名。すなはち日曜

星、月曜星、木曜星、火曜星、土



曜星、金曜星、水曜星、羅喉星、計都星。「二」紋の名。九曜星の形。(圖)

くよくよ

(副) 獨して物思に沈む有様。(又)——くよくよ。

管(名) 細くして長き筒。

くだ

小角(名) 上古軍隊の合圖に用ひたる笛。○萬葉

「吹き鳴らせるくだの音も。あたみたる虎か吼ゆるさ。諸人のおびゆるまでに」

くだい

裙帶(名) 裳の上に着くる裳。うはもに同じ。

くだい

句題(名) 古歌の句を其儘用ひてよみこむやう

にしたる和歌の題。

くたに

苦丹(名) 一説には梔子。一説には牡丹。(古今)

くたに

九谷(名) 九谷焼の略。

くたにやき

九谷焼(名) 陶器の一種。加州江沼郡九谷

村より出で、美麗に彩色を施したるもの。

くだち

降(名) 降る事。●降る時。○祝詞式「夕日の

くだちの大祓に」

くだり

下(名) くだる事。

くだり

下(名) 都より下りたる品。又は人。

くだり

行(名) 文章の行。ぎぎ

くだり

件(名) 條。●けん。

くだり

領(名) 衣服など數ふる詞。一揃。○「裝束一

くだり」

くだりばら

下腹(名) 病の名。下痢。

くだりがく

降樂(名) 法會などにて導師の講座を降る

時に奏する雅樂。

くだりの

件(の形) 前條に述べたる。●前述の。

くだりやみ

下闇(名) 陰曆にて月の下旬に當る頃の闇

夜。

くだる

下。降(自動四段) 「一」さがる。●おろい。●下

に行く。●下になる。「二」都より地方へ行く。「三」時の末になる。「四」腹の解ける●

下痢する。

くだる 降(自動四段) 降参する。

くだかけ (名) にはさり。◎一説には百濟より渡りたる鳥ゆゑ百濟鶏の意なりとも云ひ。又一説には下に引く例歌の意によれば鶏を憎みて腐鶏さいへるならんとも云ふ。○伊勢夜も明けばきつにはめなんくだかけのまだきに鳴きてせななやりつる」

くだたま 管玉(名) 短かき管の形したる玉。

くだつ 降(自動四段) 降るに同じ。

くだらなり 百濟折(名) 折帽子の一種。

(圖) 百濟琴(名) 箏候に同じ。

くだらごと 百濟藍(名) 染草の名。紅に同じ。(空

穂)

くだんの 件(形) くだりのに同じ。

くだく 碎(他動四段) 叩き破る。●粉にする。

くだく 碎(自動下二段) 破る。●粉になる。

くだくた (副) ぐにやぐ。(又)くたぐた。

くだぐた (副) くだぐに同じ。(又)くたぐた。

くだくたし (形。形状言シク活) くどし。●しつこし。

くださる 被下(他動四段) たまはる。●頂戴する。

くだしぐすり 下藥(名) 大便秘の通じをよくする藥。●下劑。

くだしぐみ 下文(名) 官より下る命令辭令等の文書。

くだびる 草臥(自動下二段) 働きて身體の勞る。

くだびれ 草臥(名) 草臥るゝ事。●疲勞。

くだもの 菓物(名) 「一」食用となる木草の實。●水菓子。●菓子。

くだす 朽(他動四段) 「一」朽ちさする。「二」くさす。●けなす。●蔑視する。

くだす 降(他動四段) 降参さする。

くだす 下(他動四段) 下らしむる。●さげる。●おろす。

くれ 暮(名) 「一」暮るゝ時刻。●晩景。「二」暮るゝ時節。●末。●終。

くれ 樽(名) 材木。●挽き割りて用ふべき材木。

くれ 塊(名) 土石なごのかたまり。

くれ (代) 何と並べていふ詞。これ。○「何くれさなく」

くれは 呉服(名) 「一」織物の名。吳織の織りたる織物。

くれは (二)綾の一種。

くれはとり

吳織。吳服(名)。「一」吳の機織の意。◎吳の

國より來りし織工。又其織りたる物。●くれは。二綾の一種。

くれはとり

吳織(枕) 織物の綾と言ひ掛けたる枕詞。

○後撰「くれはとりあやに戀しく」金葉「くれはとりあやしやいさ」

くれがた

暮方(名) 日の暮るゝ時。●黄昏。●晚景。●薄暮。

くれがく

吳樂(名) 伎樂に同じ。

(代) それがしに同じ。

吳竹(名) 竹の一種。葉細く節多きもの。

くれたけ

吳竹の(枕) 竹の縁語のよ(夜、世)ふし

(伏)に掛けたる枕詞。

くれつつみ

吳鼓。腰鼓(名) くれのつみに同じ。

くれなゐ

紅(名) 吳の藍の約音。すなはち吳國より舶

來せし染草の意。◎「一」草の名。べにばな。

「二」紅花にて染めたる色。又總べて之に似たる色。

ぐれん

紅連(名) 地獄の一種。氷に身を閉ぢられて皮

膚分裂するの苦を受くる處。其分裂したる傷口紅色となりて恰も蓮華の如き形を爲す

くれのはじかみ

故の名。(佛敎)

吳薑(名) 草の名。生姜。(和名抄)

くれのおも

檀香(名) 草の名。茴香。(和名抄)

くれのがく

吳樂(名) くれやくに同じ。

くれのつつみ

吳鼓。腰鼓(名) 雅樂の樂器。三鼓の一名。

くれのあゐ

吳藍(名) くれなゐに同じ。

くれぐれ

暮暮(名) 暮れなんとする時刻。●暮方。●黄昏。

くれぐれ

吳吳(副) かへすくも。●幾重にも。

くれぐれど

(副) 暗き有様。●おぼつかなき有様。

くれこつき

(雅) 暮來月(名) 十二月の異名。

くそ

糞尿(名) 消化したる食物の分泌せしもの。

くそ

(代) 童兒を指して呼ぶ詞。○源氏「いづらくそたち」

くそ

佛に香華を供ふる役の僧。

ぐそく

具足(名) 「一」物の一揃。「二」道具。●調度「三」

ぐそくに

具足煮(名) 甲胃。●鰓。「四」裝束。

煮る事。料理の詞。伊勢海老を殻の儘に

ぐそくびつ

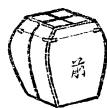
具足櫃(名) 具足を入る、

櫃。●錠櫃(圖)

ぐそくす

具足(他動サ變) 「一」揃へる。

「二」引き連る。○平治「やがて具足し奉りて上るほごに」



ぐそくす

具足(自他サ變) 「一」甲冑する。「二」装束する。

くそまる

(自動四段) 大便する。(記)

くそふく

(名) 廁。○蛸蛉「此頃はめづらしげなう時鳥のむらがりくそふくにおげゐたるなぞいひのゝしるなれど」

くつ

履。沓。靴(名) 歩く時足に履く物の總名。

くつ

朽(自動上二段) 「一」枯れ萎みて腐る。「二」老いて弱る。●零落する。

くつ

屑(名) よきものを取り去りたる跡の不用なること。●物の切れ端。●かす。

くつし

沓石(名) 建物の柱の下にある礎。

くつろか

くつろぎたる有様。●ゆっくり。△(形)「くつろかなる。(副)「くつろかに」。

くつろぐ

(自動四段) 「一」ゆっくりする。●ゆるやかになる。「二」少し動く。●身動きする。「三」休息する。

くつろぐ

(他動下二段) くつろがしむる。●ゆるめる。

くつろぎ

(名) くつろぐ事。

くつばみ

鑢(名) 鑢に同じ。

くつる

崩(自動下二段) 砕け落つる。●砕け散る。●破る。

くつほる

(自動下二段) 「一」くつる。●衰ふる。●朽つる。「二」屈する。●よわる。●失望する。

くつわ

轡(名) 「一」口輪の意。●馬具の名。口に銜まする金屬製のもの。●くつばみ。「二」紋の名。轡の形にて丸の中に十文字。

くつわたすけ

轡手助(名) 馬具の名。轡に添へて附くる總。たすけに同じ。

くつわづら

(名) 轡に同じ。(和名抄)

くつわむし

轡虫(名) 虫の名。形蚤に似て轡の如き聲してちやちやと鳴くもの。

くつわや

亡八屋(名) 遊女屋の異名。

くつがた

沓形。鷗尾(名) 建築にいふ詞。中古宮殿の棟の端に附けたる靴の沓の形したる一種の裝飾。(和名抄)

くつがた

沓形(名) 靴の沓を造る木型。(和名抄)

くつかむり

沓冠(名) 和歌の一種。毎句の頭(冠)ミ尾

くつがたのもち

(沓)とに一字づゝ文句を隠し入れたるもの
 ……「あはせたきものすこし」の文字を毎句
 に入れて「あふさかもはてはゆき一のせき
 もぬすたつれてさひこきなばかへさじ」こ
 よむの類。

沓形餅(名)

矢開の祝に用ふる楕圓形

の餅。◎この時の餅は食ひかけて口の形を
 残し置く法なるが故に口形の意なりとも。

又は沓の底の形なる故にいふさもいへり。

くつがへる

覆(自動四動)

ひっくりかへる。●轉覆す

くつがへす

覆(他動四動)

ひっくりかへす。●轉覆す

くつたぐ

風托(名)

心配のために氣の弱る事。△(動)―

風托す。

くつたび

靴足袋(名)

靴の下に履く足袋。●沓下。

くつぞこ

沓底(名)

沓の底。

くつう

苦痛(名)

苦しみ。●いたみ。

くつろひ

句繕(名)

連歌にく句を練る事。●句を附

くる事。

くつづ

(副)

堪へ兼ねて小聲に笑ふ有様。

くつづぼうし

(名) 虫の名。秋の始に鳴く蟬の一種。

●つくくぼうし。(和名抄)

くつや

屑屋(名)

紙屑の賣買を業とする人。●紙屑買。

くつま

偏癩(名)

せむし。

くつこ

口籠(名)

馬又は牛の口に被ふ籠。人を嚙まし

くつきやきほう

風竟(名)

頼むに足る事。●優れて強き事。

△(形)―風竟の。(又)―風竟なる。(副)―風

竟に。

くつきぐ

風曲(名)

折れ曲がる事。△(動)―風曲す。

くつし

屈指(名)

指を折りて數ふる事。●誰々を數へら

るる中に入る人。

くつしづ

崩出(他動又は自動下二段)

片端より崩し

くつした

沓下(名)

沓の下に履く足袋。

くつしの

屈指の(形)

指折の。●有數の。●よりぬきの。

くつびき

臥機(名)

機を織る時に足に掛くる緒。(和名

抄)

くつす

(他動サ變)

屈せしむる。

くつす

風(自動サ變)

「一」かゝむ。「二」弱る。「三」服従

する。

くづす

崩(他動四段) 「(一)崩れしむる。●こぼす。(二)略式にする。

くづすり

沓摺(名) 沓を摺りあるく事。又は其意(雅)

くづみ

靴墨(名) 靴に塗りて光澤を出すための墨。

くねる

(自動四段) 「(一)心のねぢれる。●ひがむ。●する。」「(二)うねくし折れまがる。

くねんぼ

九年母(名) 木の名。蜜柑に似て大なる甘味の實なるもの。

くねくねし

(形。形狀言シク活) 心のねぢけたる有様。●ひがみたる有様。●すれたる有様。○源氏「まづくねくしう恨むる人の心やぶらじと思ひて」

くない

宮内(名) 宮内省の略。

くないし

宮内省(名) 官廳の名。皇室の事務を掌るところ。古は八省の一にして卿、輔(大、少)丞(大、少)録(大、少)史生あり。今は大臣以下の諸官あり。

くながひ

婚合(名) 男女の交合。(靈異記)

くなたぶれ

(名) くなは頑たぶれは狂。頑迷にして痴狂なる人を憎みいふ詞。(續紀宣命)

くなど

(他動四段) 女を犯す。●交接する。(續古事談)

くら

藏。倉。庫(名) 大切な物を仕舞ひ置く建物。

くら

内藏(名) 内藏寮の署。

くら

座(名) 「(一)物を載せ置く處。●臺。」「(二)人のすわる處。●ざ。●席。

くら

鞍(名) 馬具の名。人の乗りて尻を載する處。

くらゐ

位(名) 「(一)物の定まりたる場所。●位置。」「(二)人の座る定席。」「(三)朝廷より賜はる座席順次の資格。●位階。……古代と現今との制を對照して左に示す。(……)の印は古今同じきもの」

(古制)

(今制)

親	一	品	……
王	三	品	……
四	品	……	……
以上四階			
正一位	……		
從一位	……		
正二位	……		
從二位	……		
正三位	……		
從三位	……		
正四位上	……		
正四位	……		

下 臣

正四位下	從四位上	從四位下	正五位上	正五位下	從五位上	從五位下	正六位上	正六位下	從六位上	從六位下	正七位上	正七位下	從七位上	從七位下	正八位上	正八位下	從八位上	從八位下	大初位上	大初位下	少初位上	少初位下
從四位	正五位	從五位	正六位	從六位	正七位	從七位	正八位	從八位	正九位	從九位	以上十八階	以上三十階										

〔四〕威光。●品格。〔五〕天皇の御座。●玉座。

●帝位。〔六〕官。●職。

位(助名) 物の程度を指す詞。●ほゞ。

鞍骨(名) まへわに同じ。

競馬(名) けいば。中古は五月五日に貴族多く之を行ひたり。

くらべぐるし 比苦(形。形状言シク活) 比較の出来にくい。●ごちらがよいとも判断の付きにく

くられりゅう 内藏寮(名) 官廳の名。中務省の所屬にて天皇の御服御膳等の事を掌る處。官吏は頭、助、丸、属あり。●くらのつかさ。●くらづかさ。●うちくらのつかさ。

くらはす 食(他動四段) 利を以て人を誘ふ。

くらがり 暗(名) 暗きところ。●くらやみ。

くらかけ 鞍掛(名) 鞍を馬よりはづして平生掛け置く臺。きよたつに似たる形のもの。

くらかさ 鞍笠(名) ●らつぽに同じ。

くらつぽ 鞍壺(名) 鞍の尻を載する處。

くらつかき 内藏寮(名) ●られうに同じ。

ぐらつぐ 自動四段) ●らゝする。

くらら 苦參(名) 草の名。●くさんに同じ。(萬葉)

くらむ

暗(自動四段) くらくなる。

くらふ
くらふ

食(他動四段) くらふ。●食用を爲るまじき物を食ふ。●度に過ぎて食ふ。

くらう

くらうの處を見よ。

くらう

内蔵察(名) くらうに同じ。

くらう

(副) 漂ひ動く有様。(又)「ぐらぐら」。

くらう

暗暗に(副) 暗くなりたる時刻に。(宇治)

くらう

(副) 暗き有様。○公任集「白雲にあさくらう」と行く影もさひもやすと思ひけるかな」

くらやみ

暗闇(名) やみ。●くらき處。

くらまち

藏町(名) 藏の立ち續きたる處。(源氏)

くらまされ

暗紛(名) 暗やみのまされ。△(形)「くらまされの」。(副)「くらまされに」。

くらます

暗(名) くらくする。●こまかす。

くらげ

海月。水母(名) 海産動物の名。目も口も鼻も耳も手足もなく冷も厭餅などの如くぬらくしたるもの。

くらぶ

比(他動下二段) 物と物と並べて異同を見る。

くらきみち

●比較する。●對照する。
冥途(名) めいど。(源氏)

くらし

暮(名) 生計。●生活。●活計。●世わたり。

くらし

暗(形。形狀言ク活) 「一」光のなき有様。●月なき夜の有様。「二」智恵の無き有様。

くらし

藏敷(名) 藏を借りて物を入れ置く間の敷地料。●藏の借賃。

くらし

鞍褥(名) 鞍に敷く布。(和名抄)

くらびらき

藏開(名) 新年に藏を開き初むる祝。多くは十一日を用ふ。

くらす

暮(自動四段) 生活する。●活計を立つる。

くろ

暮(他動四段) 暮れしむる。

くろ

勳(名) 勳位に同じ。

くむ

訓(名) 漢字の和譯。●和訓。

くむ

汲。酌(他動四段) 「一」水をすくひ取る。「二」酒をつぐ。●酒を飲む。「三」おしはかる。●思ひやる。●酌量する。

くむ

組(他動四段) 「一」糸などを合せ編む。●織る。

くむ

「二」物を打ち違に合はする。●交叉する。

くむ

「三」構造する。●組織する。●つくる。「四」仲間を造る。

ぐん 軍(名) 「一」ぐん。二戦。三軍陣。四戰闘。五

軍隊。六軍勢。

ぐん 郡(名) こほり。

ぐん 群(名) むれ。

ぐむ 自動四段 萌す。催す。○「芽ぐむ」涙ぐむ

くんる 勳位(名) 國家に勳功の有りたる人に賜はる名

譽の位階。古代は一等より十二等まで。現今は八等まであり。

ぐんばう 軍配(名) 「一」軍の手配り。「二」軍配團扇の略。

ぐんばうちばう 軍配團扇(名) 大將の軍隊を指揮するに用ひたる團扇。●軍扇。(圖)



ぐんばう 軍防(名) 軍を以てする防禦。

ぐんばう 軍法(名) 「一」戦争の法則。●兵法。●戰術。二軍人に限りたる特別の法律。

ぐんばう 軍防令(名) 大寶令の一部軍防に關する法律。

ぐんたう 薰陶(名) 德望又は學識を以て誘導しつゝ人物を造り成す事。●感化。△(動)―薰陶す。

くんでく 訓讀(名) 漢文を和譯にて讀む事。●△(動)

一訓讀す。

ぐんりよ 軍旅(名) いくさ。●戰爭。●軍陣。●兵馬。

ぐんりやう 郡領(名) 古代の郡長。

ぐんりつ 軍律(名) 軍中に限りて行ふ法律。●軍法。

ぐんかん 軍艦(名) 戰爭に用ふる大船。

ぐんかん 軍監(名) 「一」ぐんげんに同じ。二軍中の監督役。●軍目附。

ぐんかく 軍學(名) 兵學。●兵法。

ぐんかく 軍樂(名) 軍隊の音楽。

ぐんだい 郡代(名) 武家時代の役名。代官の上に位して地方の政務を監査するもの。

ぐんだい 軍茶利夜叉(名) 五大明王の一つ。六臂にして左肩に輪寶あり。南方を鎮して一切の阿修羅、諸惡鬼神を摧き伏するもの。(佛教)

ぐんだん 軍團(名) 中古の制。諸國に置かれたる兵士の屯營。現今の鎮臺の如きもの。其兵は二十一歳までの男子を以てし。平生は農業に従事し。事ある時は軍隊に編入せられて出陣するの法なり。官吏は大殺、少殺、主帳、校尉(二百人の長)旅師(百人の長)隊正(二十

人の長あり。

ぐんだん

軍談(名) 〔一〕軍の話。●軍物語。●戦話。

ぐんだんし

〔二〕軍話を爲して營業とする一種の術。
軍談師(名) 軍談を爲して人に聴かせるを
業とする人。●講談師。●講釋師。

ぐんざう

軍曹(名) 官名。〔一〕古へ鎮守府の屬官。●さ
くわん。〔二〕現今下士官の役名。

ぐんないじま

郡内縞(名) 絹織物の一種。甲州郡内地
方より産するもの。

ぐんわう

君王(名) 君。●帝。

ぐんげん

軍監(名) 官名。古へ鎮守府の目附役。

ぐんぷ

君父(名) 君と父と。

ぐんこう

軍功(名) 軍の手柄。●戦功。

ぐんてん

訓點(名) 漢文の訓讀に便利なるため傍に付
くる反り點。又は送り假名。

ぐんし

君子(名) 〔一〕德望の高き人。●善人。〔二〕人の
尊稱。

ぐんし

軍師(名) 軍陣に望みて大將の顧問と爲り謀を
運らす人。●參謀。

ぐんじ

郡司(名) 〔一〕古へ郡吏の總稱。大領、少領、主
政、主帳の四つを云ふ。〔二〕特には大領。

ぐんし

軍書(名) 〔一〕軍學の書物。〔二〕軍物語。●軍
記。

ぐんしよみ

軍書讀(名) 軍物語を讀みて人に聴かせる
事。又は其人。●軍談師。

ぐんじやじョウ

動狀(名) 感狀に同じ。

ぐんじやシヨウ

群書(名) 繪具の名。藍色を染むるもの
一種。

ぐんしん

君臣(名) 君と臣と。

ぐんしん

群臣(名) 多くの臣下。●百官。

ぐんじん

軍人(名) 軍隊に關係の職務を帶ぶる人。●
武者。●武夫。●武官。●兵士。

ぐんじゆ

群集(名) 人の多く集まる事。△(動)―群集す。

ぐんびやビョウ

軍兵(名) 軍隊の兵卒。●雜兵。●卒。

ぐんまじョウ

訓蒙(名) 童蒙に訓ふるの目的を以てしたる
もの。●通俗。

ぐんぜい

軍勢(名) 軍人の一群。●軍隊。

ぐんせん

軍扇(名) 軍陣に携ふる一種の扇。●軍配團
扇。

ぐんず

薰(自動サ變) よき匂ひを放つ。●かゝる。

ぐんず

(自動サ變) 屈すに同じ(雅)

くろ

空(名) 〔一〕眼に見ゆるものゝなき所。●何もな
くむた

き所。「二」そら。●空氣。「三」眞實ならぬ事。
●實際の役に立たぬ事。

くう

(他動下二段) 蹴る。(古)

くふ

食(他動四段) たべる。●食する。

くふ

(他動四段) 口にくはへる。○萬葉「青柳の枝く
ひもちて驚なくも」

くふ

(他動四段) 鳥類の巢を造る。

ぐう

寓意(名) 他の事に寄せて或意味をほのめかす
事。

くろ

空論(名) 實際の役に立たぬ議論。

くろ

空に(副) 目的もなく徒に。●空しく。

ぐう

偶像(名) 人形の如き像。●木石金屬などに
て造りたる神佛の像(基督教)

ぐう

功付(自動四段) 巧者になる。●熟練する。

ぐう

空也念佛(名) 空也上人の始めたるも
のにて今も行はるゝ一種の念佛。踊りつゝ
行ふもの。

ぐう

寓言(名) 他の事に寄せて或意味を述ぶる言
葉。●喩へ話。

くろ

空腹(名) 腹の減る事。

くろ

宮殿(名) 宮と殿と。

くう

空氣(名) 地球の表面を包む大氣。我々の日夜
呼吸するところのもの。

くう

空虛(名) 何もないところ。●から。

ぐう

寓居(名) 假住居。

ぐう

官司(名) 「一」神主。「二」現今は官國幣社の神
官の長。

ぐう

偶然(副) 思ひも寄らぬ有様。●不意に。

くう

供(他動サ變) そなふる。●手向くる。○謠曲
「花を佛にくうすれば」

ぐう

偶數(名) 二分して割り切るゝ數。……二、
四、六の類

くろ

苦惱(名) 苦しみ悩む事。●苦痛。

くろ

薰衣香(名) 薰物の名。中古衣服に焚きし
むるためのもの。

くの

(名) 木の名。くねぎに同じ。

くの

九九(名) 掛け算の呼び聲。

くの

(自動四段) くる。●漏るゝ。●萬葉「山吹の茂
み飛びくゝ鶏の聲を聞くらん君は乏しも」

くろ

莎草(名) 草の名。海邊の砂地に生ずるもの。莖
は繩になひ又蓑に作る。

くろ

鵠(名) 鳥の名。鵠の鳥。●鵠雁。

くくり

括(名) 「一」括る事。「二」指貫の裾を括り上げる紐。

くぐり

潜(名) 潜戸の罫。

くぐりど

潜戸(名) 潜りて出入するやうに低く作りたる戸の入口。

くくりぞめ

括染(名) 絞り染め。

くくりまくら

括枕(名) 臺のやうに造りたる枕。

くくる

括(他動四段) 「一」結ぶ。●縛ふ。●ゆはへる。●束ぬる。「二」括り染めにする。

くぐる

潜(他動四段) 「一」水の中に入る。●もぐる。

くぐりつ

九月(名) 年の第九番目の月。

くぐりつじん

九月盡(名) 九月最終の日。

くぐりだち

莖立。葦(名) 菜の苗。●菜の臺。(雅)

くぐりつ

(名) 藁にて袋のやうに編みたる籠。海士などの用ふるもの。

くぐりつ

傀儡(名) 「一」人形。●唄に合せて舞にすもの。

くぐりつまはし

(二)遊女の異名。 傀儡廻(名) 人形遣ひ。

くぐりつめ

傀儡女(名) 人形遣ひの女。

くぐりなは

蒔草繩(名) 蒔草にてなひたる繩。

くくむ

(他動四段) 包む。●含む。

くくむ

(他動下二段) 乳房又は食物などを口に入れさせる。

くくまる

胴(自動四段) 體の屈まる。●脊出のやうになら。

くくみら

(名) 莖薤の意にや。●薤の種類。(萬葉)

くくもる

(自動四段) 曇る。●こもる。●含まる。

くくせ

(名) 曲脊の意。●脊出。(新猿樂記)

くくす

(他動四段) 括るに同じ。

くくつ

(代) こやつに同じ。此奴。●こいつ。(空穗)

くくむ

悔(他動四段) 残念に思ふ。●くちをしと思ふ。

くくく

公役(名) 官の人夫。●軍役。

くくみ

悔(名) 「一」くやむ事。「二」不幸の見舞を述べら。●叩ふ。

くやし

悔(名) 悔むべき有様。

くやしがる

(他動四段) 悔しく思ふ。

くやしむ

(他動四段) くやむに同じ。

くやす

(他動四段) 崩す。(雅)

くま

熊(名) 獸の名。形程に似て大きく全身黒色にして咽喉の邊に三日月形の白き毛あり。寒國に住むもの。又全身白色なるもあり。

くま

曲。隈(名) 「一」入り曲がりたる所。「二」光の漸々

淡くなりて影さなる際の所。●陰。「三」繪
畫の詞。濃き所より漸々淡くなるやうに彩

色もしくは墨にてかきたる處。

くま

供米(名)

くまの略。
神佛に供ふる白米。

くま

愚昧(名)

愚にして道理に味き事。

くま

熊蜂(名)

蜂の一種にして形の大なるもの。

くま

(名) 隈の處。●物の陰。(萬葉)

くま

隈取(他動四段)

繪畫にいふ詞。一方を濃く

くま

してそれより漸々薄くするをいふ。

くま

隈路(名)

折れ曲がりたる道。

くま

配(他動四段)

くはるに同じ。《古

くま

隈回(名)

くまに同じ。○萬葉「路のくまわし」

くま

熊鷹(名)

鳥の名。鷹の一種にして其性極め

くま

て猛きもの。

くま

鴨。熊鷹(名)

鳥の名。鷹の一種にして體大き

くま

く性も亦猛烈なるもの。

くま

(名) 草の名。馬鞭草に同じ。

くま

隈無(形。形狀言ク活)

暗き處の無き。●あ

くま

るし。●陰なし。(雅)

くまんばち

(名) くまばちに同じ。

くまのい

熊膽(名)

藥品の名。熊の膽を取りて製した

くまのい

るもの。

くまのこわらう

熊野牛王(名)

紀州熊野の牛王といふ神

くまのこわらう

に誓を立つる文句を書きたる紙。昔し起證

くまのこわらう

文を書くには此紙を用ひたり。

くまのこわらう

隈々(名) すみど。●まがりく

くまのこわらう

隈々し(形。形狀言ク活)

陰の多き有様。

くまのこわらう

●暗き處のこゝかしこ見ゆる有様。●曲り

くまのこわらう

の多き有様。(雅)

くまのこわらう

熊毛(名) 熊の毛にて造りたる鎗の鞘。徳川時

くまのこわらう

代大名の行列に立てゝ持たせたるもの。

くまのこわらう

熊手(名) 「一」武器の名。鉄にて熊の爪の如く

くまのこわらう

に造り。長き柄を添へたるもの。●鉄搭。

くまのこわらう

「二」竹にて熊手の如くに造り落葉など搔く

くまのこわらう

に用ふるもの。

くまのこわらう

熊坂(名)

熊笹(名)

熊笹(名) 笹の一種。葉の周圍に白き縁のあ

くまのこわらう

るもの。

くまのこわらう

供米稻(名)

神佛に供ふる白米。

くまのこわらう

公家(名)

「一」朝家。●皇室。「二」維新前朝廷に

仕へたる高等官。

くけ 公卿(名)

公卿(名) 公卿の(二)に同じ。

くけはり

(名) 縫針の一種。くける時に用ふるもの。

くける

縫(他動下一段) 裁縫の詞。縫目の見えぬ様に縫ふ。

くけつ

口訣(名) 口づから傳ふる秘訣。●口傳。

くげん

苦痛。●苦惱。

くぶ

供奉(名) 高貴の御供。△(動)―供奉す。

くぶ

(他動下一段) 火の中に入る。

くぶつ

愚物(名) 愚なる人。

くぶつ

工夫(名) 考を廻らして計畫する事。●趣向。

くぶつ

●意匠。△(動)―工夫す。

くぶつ

颶風(名) 海上の大風をいふ。●はやち。●ばやて。

くぶつ

枸杞(名) 灌木の名。若葉は摘みて食すべく。又茶

くぶつ

の如く製して枸

くぶつ

杞茶と稱へ飲用

くぶつ

に供するもの。

くぶつ

箜篌(名)

くぶつ

古代樂器の

くぶつ

名。立て置きて

くぶつ

弾く琴。一名は



百濟琴。また立琴。(圖)

くご

供御(名)

天皇に供する御膳。

くご

供御(名)

くごに同じ。

くこん

九献(名)

祝儀の式などにて酒を三献づゝ三回につぐ事。

くごもる

口籠(自動四段)

口中に聲の籠りてよく聞えぬ。

くあい

宮衛(名)

禁中の護衛。

くあい

宮衛令(名)

大寶令の一部。宮衛に關する法律。

くあにち

凶會日(名)

陰陽家にて忌む惡日の名。

くあにち

(名)

關に同じ。(雅)

くそく

花足(名)

げそくに同じ。(雅)

くそく

眷族(名)

げんぞくに同じ。(雅)

くそく

卷纏(名)

げんねいに同じ。(雅)

くそく

源氏(名)

げんじに同じ。(雅)

くそく

還城樂(名)

雅樂の曲名。げんじ

くそく

源氏(名)

げんじに同じ。(雅)

くそく

還城樂(名)

雅樂の曲名。げんじ

くそく

還城樂(名)

雅樂の曲名。げんじ

くそく

還城樂(名)

雅樂の曲名。げんじ

くそく

還城樂(名)

雅樂の曲名。げんじ

くそく

還城樂(名)

雅樂の曲名。げんじ

くでん

口傳(名) 口づから傳授する事。△(動)―口傳す。

くでま

工手間(名) 細工の手間賃。

ぐあひひ

工合(名) 物事の調ひ方。●調子。●釣合。

ぐあん

●あんばい。愚案(名) 我意見……謙遜して云ふ詞。●愚見。

くさ

草(名) 「一」植物の一種。木よりも小さくして莖の軟かきものの總名。「二」葦。「三」藁。「四」草の汁。

くさ

種(名) 「一」種。○「思ひ出草」笑ひ草「二」種類。○「五くさ」「三くさ」

ぐさ

具者(名) 従者に同じ。●供人。(空穗)

くさくさ

草薺(名) 草の名。薺の一種。

くさば

草葉(名) 草の葉。

くさばな

草花(名) 「一」草の花。「二」特には秋の草花。

くさはうき

草簾(名) 簾草にて造りたる簾。

くさどり

草取(名) 草を取る事。●草を取る人。●草を取る道具。

くさるる

草取(自動四段) 草の中に入りて雑子を捕る。○「入日さす夕狩小野の慕はれて草さる鳥のあさもかくれず」

くさり

鎖(名) 金の輪を繋ぎ合はせたるもの。

くさり

(名) 物の一切り。……多く唄、淨瑠璃などにいふ。

くさりばかま

鎖袴(名) 細かき鎖を縦横に繋ぎて造りたる袴。

くさりかたばら

鎖帷子(名) 細かき鎖を縦横に繋ぎて帷子の如く造りたるもの。

くさりがま

鎖鎌(名) 武器の名。鎌の柄に長き鏈を着けたるもの。

くさるる

腐(自動四段) 朽つる。●腐敗する。

くさるる

鎖(他動四段) 鎖の如く繋ぎ合はす。

くさはりひ

(名) 物の種。●品。●材料。○源氏「難すへきくさはひませぬ人は」

くさはりら

草原(名) 草の生えたる原。

くさわけ

草分(名) 草を分け行く事。

くさわけころも

草分衣(名) 草を分け行く時に着たる衣。(雅)

くさわき

草腋(名) 馬にいふ詞。草を分くる胸の邊。

くさかり

草刈(名) 草を刈る事。又は其人。

くさかりがま

草刈鎌(名) 鎌の一種。草を刈るに用ふ

るもの。

くさかりぶえ

草刈笛(名) 草を刈る童の吹く笛。●草笛。

くさがれ

草枯(名) 草の枯るゝ事。又は其季節。(秋の末)

くさがくれ

草隠(名) 草にてかくるゝ處。●草陰。

くさかけ

草陰(名) 草の陰。

くさだか

草高(名) 昔し田地にいへる詞。全體の牧獲高。

くさだつ

草立(自動四段) 草の生ひ立つ。●草の枯れすに生ひ立ちて居る。(夫木)

くさだんご

草團子(名) 蓬の葉を交ぜて造りたる團子。●草餅。

くされずさ

腐儒者(名) 世務に迂遠なる儒者を卑しめていふ詞。

くさななほのしほ

草草紙(名) 小説の一種。大方平假名にて書き一枚毎に細密なる挿畫を入れたるもの。

くさたらかす

腐(他動四段) 腐れさする。

くさん

苦參(名) 木の名。高さ三四尺位にて葉は槐の

如く薄黃色、または白、紫などの蛾形の花さくもの。異名は……くらい。●狐大豆豆。

●雷大豆豆。●大槐。

くさむら

叢(名) 草のむらがり生えたる所。●草原。

くさんし

苦參紙(名) 紙の名。苦參にて造れるもの。(延喜式)

くさのかきは

(名) 草の片方の葉。(祝詞式)

くさのしる

草香(名) 草の名。香のよきもの。(和名抄)

くさぐだもの

草汁(名) 繪の具の名。雌黄と藍と交ぜて綠色にしたる汁。

くさぐさ

草蔓物(名) 草に生りたる蔓物。又は瓜の類。

くさや

種類(名) 種々。●様々。●色々。

くさまくら

(名) もすのくさぐさを見よ。

くさぶえ

草屋(名) 草葺の屋根の家。●茅屋。●藁屋。

くさぶき

草枕(名) 草枕(枕) 旅の枕詞。

草葺(名) 草刈笛に同じ。

藁萱などにて屋根を葺く事。

くさくさし

草臥(名) 草の上に臥す事。

くさくさも

草衣(名) 草にて摺りたる衣。(雅)

くさあはせ

草合(名) 雅遊の名。雙方より種々の草

に和歌を添へて出だし其趣向の優劣を闘はすもの。

くさね

蜀漆。久佐木(名) 草の名。葉は梓に似て夏の末

赤みいりたる白色の花さくもの。

くさねる

耘(他動四段) 田の草を取る。

くさめ

嚏(名) 風を引きたる時なご鼻の奥に一種の感

じを生じてハクシャさいふ聲の出づるもの。

くさし

臭(形。形状言ク活) 悪しき匂のする有様。

くさじか

草鹿(名) 弓を學ぶに的とする道具。藁を束

れて鹿の形に造りたるもの。

くさじし

草鹿(名) くさしかに同じ。

くさび

楔(名) 物の合せ目に打ち込みて弛まぬ様にするもの。

くさび

轄(名) 車の心棒の端に貫きて軸を抜けぬやう

にするための楔。

くさひとがた

草人形(名) 古へ祭式又は祓の式に用ひ

たる藁人形。

くさびら

菌(名) 「一」野菜。●青物。「二」茸。●きのこ。

くさもち

草餅(名) 蓬の葉を搗き交ぜたる餅。●草團

子。

くさもちひい

草餅(名) くさもちに同じ。(和泉式部集)

くさず

(他動四段) けなす。●をしる。●悪しくいふ。

●誹謗する。

くさずり

草摺(名) 鍔の裾にびら／＼垂れるもの。

くさ

莖(名) 「一」植物の軸となりて葉と花とを着くる

部分。「二」長刀などの柄。

くさ

岫(名) 山の穴。●洞。

くさ

鼓(名) 汁にする納豆。(和名抄)

くさ

釘(名) 板、材木など密着させる爲めに打ち込む

もの。鐵又は竹木などにて作る。

くさり

句切(名) 「一」文句の切れ目。「二」物事の切れ

目。

くさぬき

釘抜(名) 打ち込みてある釘を抜き取る具。

くさぬき

毛抜の大なる如きもの。

くさぬき

釘貫(名) 「一」門の一種。柱を

二つ立て其上に横木を渡したる假初の門。……古へ關屋の

門、墓の門などに用ひたり。



くきやキヨウ

〔二〕紋の名。(圖)

究竟(名) 〔一〕此上なき事。●極點に達する事。●最も優れる事。〔二〕強き事。●頼になる事。

くぎやギヨウ

供饗(名) 三方に似て穴の無き臺。

くぎやギヨウ

公卿(名) 公家、公卿に同じ。

くぎやギヨウ

苦行(名) 苦辛して行ふ佛道の修行。

くきだつ

莖立(自動四段) 野菜などの莖の出づる。●臺の立つ。(雅)

くぎづけ

釘付(名) 釘にて打ちつくる事。

くきながた

莖長に(副) 柄長に。……長刀にいふ。○謡曲「中口も知盛進み出で。大長刀を莖長にさりのべ」

くきら

句枳羅(名) 梵語。◎鳥の名。和名漢名詳ならず。俊賴は時鳥として雨中郭公の題によめり。曰く「われ聞かん巨勢のさやまの杉が上に雨もしののにくきらなくなり」

くゆ

悔(自動上二段) 我前非を悟る。●後悔する。

くゆ

(自動上二段) 崩るい。

くゆる

薰(自動四段) よく燃わすに煙の立つ。●ふすばる。●いぶる。

くゆらかす

(他動四段) くゆらすに同じ。

くゆらす

(他動四段) くゆらしむる。●ふすぶる。●いぶす。

くめ

貢馬(名) 朝廷へ貢物として奉る馬。

くめちのはし

久米路の橋(句) 中絶したる意味の故事。昔し役小角といふ行者ありて葛城山と吉野の金峰山との間に橋を掛けんさて葛城の神などに命じ作り初めけるが中途にて工を廢したる故にいふ。……葛城の神を參考せよ。○後撰「葛城や久米路の橋にあらはこそ思ふ心を中空にせめ」

くめん

工面(名) 〔一〕工夫。〔二〕一家の暮らし向き。

くめうた

久米歌(名) 久米舞の時に用ふる歌曲。(紀)

くめのいははし

久米の岩橋(句) 久米路の橋に同じ。

くめまひ

久米舞(名) 上古雅樂寮の舞曲の名。大嘗會には必ず奏したるもの。(續紀)

くみ

組(名) 〔一〕組む事。●組みたるもの。〔二〕組糸。●組紐。〔三〕仲間。●團體。●組合。〔四〕組み合ひたるもの。

ぐみ

茱萸(名) 灌木の名。赤くして漿形の小さき實のもの。其味甘美なり。

くみいど 組糸(名) 組み合はせたる糸。

くみいれ 組入(名) 「一」組み合はせたる天井の板。

「二」天井。

くみど (名) 夫婦の相共に寝る室。(記)

くみを 組緒(名) 組紐に同じ。

くみかはす 酌交(他動四段) 杯の取り遣りをする。

くみがき 組垣(名) 竹など組み合はせて作れる垣。

(名) くびかみに同じ。

くみがみ 組髪(名) すべて結びたる髪。

くみがしら 組頭(名) 其組の頭たる人。●組長。●伍長。

長。

くみたつ 組立(他動下二段) 組み合はせて作る。●搆造する。●組織する。

汲立(名) 今汲んだばかりのもの。

くみたて 組立(名) 組織。●構造。

くみれ (名) くみいれに同じ。

(名) くみいれに同じ。

くみつく 組付(自動四段) 兩手にて敵を抱へる。

ぐみん 愚民(名) 愚昧なる民。

くみうち 組討(名) 軍陣の詞。互に組み付き合ふ事。

くみのを 組緒(名) 組紐に同じ。

くみて 組子(名) 組下の兵卒。●手下。●部下。

くみあひい

組合(名) 組み合ふ事。又は其人。●仲間。●共同。●團體。

くみあふ

組合(自動四段) 「一」仲間になる。●共同する。●聯合する。「二」互に組み付き合ふ。

くみあぐ

組上(他動下二段) 「一」上の方へ組みて行く。「二」組み終はる。

くみし

組師(名) 組糸を作る職工。(職人盡歌合) 組下(名) 一組の頭の下に管理せらるる人。

くみした

●手下。●部下。

くみしく

組敷(他動四段) 組み合ひて敵を下に敷く。

くみひも

組紐(名) 組糸にて編みたる紐。

くみす

與(自動サ變) 仲間になる。●徒黨になる。●一味になる。

くし

串(名) 「一」物を刺し貫く棒の類。「二」特には魚など焼く時に貫く竹又は金屬の細き棒。

くし

「三」特には幕を張る時地上に立つる柱。其形鐵火簀に似たるもの。

くし

櫛(名) 髪を梳る道具。女の頭の裝飾品としても用ふ。

くし

首(名) くび。●かしら。●あたま。

くし

奇(形。形狀言シク活) 奇妙である。●靈妙不思議

である。

公事(名) 「一」朝廷の儀式。「二」朝廷の事務。「三」訴訟。

鬪(名) 「一」何が當たるか知らずに引くやうに作らる札。「二」其札を引く一種の方法。

九時(名) 時刻の名。一時より九番目に當たる時。陰陽家にて行ふ呪の一派。臨兵闘者皆

陣列在前の九文字を誦して空中に向ひ縦四本横五本の線を井桁のやうに引きてするもの。此呪は怨敵退散、惡魔退治などに用ふ。

釧(名) 古代の裝飾品の名。臂の袖の上に纏ひたるもの。……腕輪の類。○萬葉、我妹手は

釧にあらなん左手の我奥の手に巻きていなましを」

釧着(枕) たぶしの枕詞。たぶしは手節なれば釧を着くる手節とある意。○萬葉、く

しろつくたぶし(地名)の崎に」

觸(名) 結び目を扶けて解く爲めの具。錐に似て本の太きもの。(和名抄)

袂(他動四段) 突き込みてゐる。

鹿(名) 鹿の名。鹿の類にして角なきもの。

くしがた 櫛形(名) 櫛の形。●蒲鉾なり。

くしがき 串柿(名) 串に通して日に乾し澁を抜きたる柿の實。

くじやう 苦情(名) 「一」苦しき情實。●困難なる譯柄。「二」不承知の事情。

くじやう 具狀(名) 事情を具さに記述して上申する事。△(動)―具狀す。

くしん 苦心(名) 心を苦しむる事。●心配。●心勞。●憂慮。△(動)―苦心す。

くしん 具申(名) 具狀に同じ。△(動)―具申す。

くじく 挫(他動四段) 折り碎く。●折る。

くじく 挫(自動下二段) 「一」折れ碎くる。「二」折る。●孔雀(名) 鳥の名。羽の色は五彩にて極めて麗はしく。尾は長くして其端に寶珠の形あるもの。

くしやみ 倶舍宗(名) 佛教の宗派の名。八宗の一にして世親菩薩を太祖とし玄奘三藏支那に傳へ玄昉、智通、智達、三僧の我邦に傳へたるもの。今既に廢絶したり。

くしまつ 櫛松(名) 紋の名。櫛の形をなしたる松。(圖)

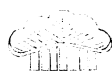
櫛笄(名) 櫛を入る一箱。

くしけ

梳(他動四段) 髪を櫛にて解く。

くしぼ

(自動上二段) 靈妙である。●不可思議である。



くしざし

串刺(名) 上古の罪の名。田の中に串など刺し置きて農夫を傷つけ農業を妨ぐる事。(祝詞式)

くしざし

串刺(名) 串にて刺し貫く事。又は其貫きたるもの。

くしき

九識(名) 一に眼識。二に耳識。三に鼻識。四に舌識。五に身識。六に意識。七に末那識。八に阿賴耶識。九に菴摩羅識。(佛教)

くしび

(名) 靈妙。●不可思議。

くしひき

櫛挽(名) 櫛を造る工人。

くしびき

鬪引(名) 鬪を引く事。

くび

頸。首(名) 「一」胴體と頭との間の細き所。●はり

くび。 「二」衣服の頸に當たる處。●はり。

「三」頸より上の部分。●頭。●首級。

くびる

縊(他動四段) 「一」括るに同じ。 「二」帶紐などにて咽喉を締めて殺す。●絞首にする。

くびる

縊(自動下二段) 自ら縊られて死ぬる。●首く

くびなけ

首桶(名) 陣中などにて斬りたる首級を入る桶。

くびがみ

盤領(名) 裝束襟の稱へ。袍、狩衣などの如く圓形になりたるもの。●ばんりやう。●丸

襟。●筒襟。(圖)



くびかし

首枷(名) くびかせに同じ。

くびかせ

首枷(名) 罪人の頸に箝めさせて身の自由を得ざらしむる板。●くびかせ。

くびたま

頭玉(名) 「一」上古の裝飾品の名。頸にかくる玉飾。 「二」首筋。 「三」犬猫などの頸に掛くる飾りの環。または紐。

くびつな

頸綱(名) 犬を曳く時頸に掛くる綱。

くびのざ

首座(名) 首を斬る席。●斷頭場。

くびぐび

(副) 酒など飲む音。(又)ーぐびーくさ。

くびき

輓(名) 牛車の轆の先にある横木。牛の首に掛けてひかしむるさろ。

くびじっけん

首實檢(名) 敵又は罪人などの首級を實際に檢査する事。●くびあらため。

くびき 首引(名) 遊戲の名。兩人相對し頸に紐を掛

けて引合ふ事。

くびす 踵(名) 足の後の端。●かいこ。

くびすぢ 頸筋(名) 頸の後の部分。ほんのくびの處。

くも 蜘蛛(名) 虫の名。體は短く丸く八本の足を有し

て糸の如きものを吐き之を掛け渡して巢を營むもの。

くも 雲(名) 〔一〕水蒸氣の凝りて空中に相引くもの。

〔二〕雲の如き性質又は形したるもの。

くもろ 雲居・雲井(名) 〔一〕雲の在る處。●空。●遠く

隔たりたる處。〔二〕雲の上。

くもばなる 雲離(自動下二段) 雲井の空に遠く離る

い。(雅)

くもどり 雲鳥(名) 古代模様の名。雲と鳥とを畫き

たるもの。

くもち 雲路(名) 雲の通路。

くもり 曇(名) くもる事。

くもる 曇(自動四段) 〔一〕雲の空を掩ひて立重なる。

〔二〕すべて明かならぬ。●雲のこゝりたるやうになる。

くもがた 雲形(名) 模様の名。雲の形を畫きたるも

くもがくる 雲隱(自動下二段) 〔一〕雲に隠る。〔二〕

死ぬる。

くもがみ 雲紙(名) 雲形の紙。

くもつ 供物(名) 神佛に供ふる食物。

くもつる 雲鶴(名) 古代模様の名。雲と鶴とを畫き

たるもの。

くもらはッシ (形・形狀言シク活) 曇りたるうの右様。

●曇りかけたる右様。(雅)

くもん 公文(名) 布達。●公報。

くもんじょ 公文所(名) 鎌倉幕府の政令を出だす役所。

くものば 雲端(名) 雲の端の處。

くものむかへ 雲迎(名) 阿彌陀の國に引き取らるゝ時

二十五菩薩の乗りたる紫の雲の迎へに來る事。(佛教)

くものうへ 雲上(名) 禁中。

●御所の内。

くものうへびと 雲上人(名)

公卿。●貴族。

くものゐる 雲丸(名) 模様又

は紋の名。雲を圓



くものみね

形に畫がけるもの。(圖)

雲峰(名) 夏の炎天に峰の如く聳ゐて空の

一方に立つ雲。

くもま

雲間(名) 雲の絶間。

くもで

蜘蛛手(名) 「一」蜘蛛の手は八本ありて八方に

出でたるさま恰も四本の線を交又せるに似たれば。すべてやうに打違ひたる形の物を云ふ。又一の點より八方に別れ出でたるものをも云ふ。○伊勢「水ゆく川のくもでなれば橋を八つ渡せるによりて」「二」蜘蛛の巢。○和泉式部集「はかなしや朝日まつ間の露を見てくもでにぬける玉さ見けるよ」「三」劍法の名。刀を揮ひて四方八方に切り拂ふ術。

くもでに

蜘蛛手に(副) 蜘蛛手の如くに。●入り違ひ

結ばれて。●入り交り亂れて。○小大君集「花すいき蜘蛛手に人に結ばれていつか解くるさ待つぞはかなき」拾玉集「さいがにのいさほしさにきこぬはくもでに物を思ふかひなし」

くもあし

雲脚(名) 雲の歩み。

くもみつ

雲水(名) 雲の如く水の如く行方の定まらぬ行脚僧の身。

くもひし

雲菱(名) 模様の名。雲を菱形に畫がけるもの。(圖)

くもすけ

雲助(名) 徳川時代。驛路渡場などに居て駕籠など昇くを業とする一種の無宿無頼の徒。

くもすき

雲透(名) 「一」雲の透間。●雲間。「二」雲に透して見る事。○謡曲「立つ雲透に。見ればかたじけなや。けにも社壇のありけるぞ」

くせ

癖(名) 「一」悪しき習慣。「二」習慣。

くせ

曲(名) 不正の事。

くせ

曲(名) 謡曲中一種の節の稱へ。

くぜい

弘誓(名) 衆生を弘く救はんとの佛の誓約。(佛教)

くぜいのふね

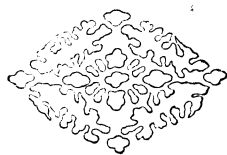
弘誓舟(名) 弘誓の効能を舟もて溺る人を救ひ助くるの意。

くぜち

口説(名) くぜちに同じ。

くぜつ

口説(名) 口にての爭論。●言ひ合ひ。



くせん

苦戰(名) 困難なる戦争。△(動)―苦戦す。

くせん

口宣(名) 口上にて勅命を傳ふる事。

くせぐせし

(形。形狀言シク活) 惡しき癖のある有様。

●ひがくし。

くせまひ

曲舞(名) 「一」足利の頃行はれたる一種の歌舞。之を布演し完全したる物が即ち能樂なり。「二」曲舞を舞ふ人。「三」謡曲中の一部分。

くせご

曲事(名) 「一」不正の事。●不届至極の事。●違法。「二」犯罪者を所罰する事。

くせもの

曲者(名) 「一」一癖ある者。●普通ならぬ人。……善き意味にも惡しき意味にもいふ。

●善き意味にも惡しき意味にもいふ。

くす

樟。楠(名) 木の名。髓を製して樟腦を得べく實より蠟を造るべく。材も亦器物其他に適するもの。

●悪徒。●盜賊。

くす

(自動サ變) 風す。●屈托す。●よわる。(雅)

くす

葛(名) 「一」草の名。蔓生にして藤豆に似たる花

秋の始に開く。根は葛粉に製し。蔓は葛布を織るに用ふ。「二」葛粉。

ぐす

具(他動サ變) 「一」揃ふる。●備ふる。●調ふる。

ぐす

具(自動サ變) 備はる。●調ふ。

ぐまわし

鼓吹司(名) 官廳の名。兵部省の所屬にて陣用の鼓、角を取扱ひ。および其鼓手、角手を管理するところ。

ぐまばかま

葛袴(名) 葛布にて造りたる袴。

ぐまぼる

(自動四段) くすぶるに同じ。

ぐすり

藥(名) 「一」病を癒やす爲めに飲み又は貼り塗りなどするもの。「二」彈丸。

ぐすりばこ

藥箱(名) 藥を入れる箱。……おもに醫師の携ふるもの。●藥籠。

ぐすりがり

藥獵(名) 古代の俗。五月五日野に出で、藥草を取り集めたる事。

ぐすりのかみ

典藥頭(名) 典藥寮の長官。

ぐすりのつかさ

典藥寮(名) てんやくれうに同じ。

ぐすりのこと

藥の事(名) 病氣の異名。(源氏)

ぐすりこ

薬子(名) 古へ禁中にて正月元日に先づ屠蘇の酒を飲み試み。而して後天皇の供御に奉る。其飲み試みの役の童女。

ぐすりゆ

藥湯(名) 藥品を加へて入浴する湯。又おの

くすりゆび

づから薬の氣のある湯。●鑛泉。
薬指(名) 指の名。手の中指と小指との間
のもの。●無名指。

くすりび

薬日(名) 薬獵をする日。即ち五月五日。

くすはし

(形。形狀言シク活) 奇妙なる有様。●靈妙不
思議なる有様。

くすだま

薬玉(名) 種々の造花もて玉のやうに作り中
に香料を入れ

て柱などに懸
け置くもの。

下の方には五
色の糸ありて

垂れ下がる。

(圖)



くすむ

(自動四段) 老人
らしく見ゆる。●ふけて見ゆる。●まじめ
になる。(雅)

くすんごぶ

九寸五分(名) 身の長さ九寸五分の短刀。

切腹の時などに用ふるもの。

くそぐる

(他動四段) こそぐるに同じ。

くすぐつたし

(形。形狀言ク活) くすぐつたれたる時の感

ぐすぐす

(副) 不活潑なる有様。(又)ーぐす／＼と。

ぐすや

(名) 草屋。●茅屋。●藁屋。

ぐすふ

葛布(名) 葛の蔓の纖維にて織りたる布。

くすぶる

(自動四段) 充分に燃へずして煙のみ立つ。

●いぶる。●ふすぶる。

くすこ

葛粉(名) 葛の根より製したる白き粉。

くすゆ

葛湯(名) 葛粉に砂糖を加へ熱湯に解きたるもの。

くすし

薬師(名) 醫師。●醫者。

くすし

奇(形。形狀言シク活) 靈妙である。●不可思議
である。

くすち

葛餅(名) 食品の名。葛粉にて造りたる餅。

くすち